

北九州市立大学 地域共生教育センター

ラボ・レター

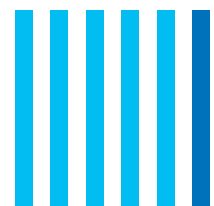
地域活動報告2020

(地元就職応援インタビュー)

このラボ・レターは、421Lab.(ラボ)から地域の皆様と共に歩んでいきたい
という思いを込めたお手紙(レター)のように作成しました。

これまでの活動への感謝とこれから始まる新しい関係への、
私たちからのラブレターのように手に取っていただければ幸いです。

発 行： 北九州市立大学地域共生教育センター(421Lab.)
発行日： 2021年3月
編 集： 北九州市立大学地域共生教育センター(421Lab.)
協 力： プロジェクトに参加していただいた多くの皆様
制 作： 株式会社 エディックス



421Lab.

北九州市立大学 地域共生教育センター
Regional Symbiosis Education Center

〒802-8577 北九州市小倉南区北方4-2-1 (北方キャンパス2号館1階)
[TEL] 093-964-4092 [FAX] 093-964-4088
[OPEN] 10:00~18:00 (月~金)

詳しい情報やアクセスはホームページでチェック

www.kitakyu-u.ac.jp/421/

Twitterで活動の最新情報を発信中 twitter.com/421lab_students

北九州市立大学 地域共生教育センター

ラボ・レター

地域活動報告2020

(地元就職応援インタビュー)

ラボ・レターによせて

北九州市立大学地域共生教育センター(通称:421Lab.)は2010年の設立以来、地域社会における実践活動を通じた若者の人材育成を図ることを目的として、地域活動に取り組む学生達を一貫して支援してきました。お陰様で2020年4月21日をもって設立10周年の節目を迎えることができました。単位も付与されない、報酬を得ることもないという状況の中で、学生達が主体的に学ぶ姿勢やモチベーションを保ち続けて来られたのも、ひとえに地域の皆様方のご支援・ご協力があったからこそだと感じています。あらためまして、これまでのご厚誼に感謝を申し上げます。この10年間で様々な地域の皆様方に支えられながら活動をしてきた学生達は、ここで蓄えた経験や知見を携えて社会に巣立っていきました。彼ら彼女らが、今、全国各地で活躍していることを想像するだけで熱い想いでいっぱいです。

ところが今年度は未曾有のコロナウイルスによる影響で、我々の活動は大きな制限を受けることになりました。例年は4月の新入生オリエンテーションの際に、421Lab.の紹介を行い、多くの新入生達が活動に興味を持って門戸を叩いてくれるのですが、今年度は対面による勧誘の機会を奪われ、活動自体も禁止されていたためフレッシュな学生達がセンターを彩ることはありませんでした。外部での活動が許可されたのも2学期以降にずれ込み、学生達は大きな不満も抱えていたことでしょう。このような困難な状況の中でも、オンラインでも可能な活動を模索し、与えられた条件の中で活動してきました。世界を取り巻く環境が大きく変わる中で、時代の変化に即した新たな課題にも臨機応変に対応する柔軟な力を421Lab.の活動を通じて学んで欲しいなと願うばかりです。

来年度の社会環境がどのように変化していくのか、まだまだ先行き不透明な部分もありますが、「地域活動を通して将来地域で活躍する若者を育てる」という421Lab.の骨格となる理念は変わりません。学生の成長のために、引き続き変わらぬご支援、ご指導を頂きますようお願い申し上げます。

2021年3月
地域共生教育センター長
内田 晃

INDEX

4	COMPANY×STUDENT	コスモ海洋株式会社
6		株式会社ウチヤマホールディングス
8		地域創生学群 3年 黒澤 紋子さん
10	地域共生教育センター(421Lab., ヨン・ニー・イチ・ラボ)とは	
12	421Lab.学生運営スタッフ	
14	プロジェクト支援グループ 那須班	
15	プロジェクト支援グループ 亀本班	
16	ラボ支援グループ 尾澤班	
17	ラボ支援グループ 西村班	
18	大学地域支援グループ 村田班	
19	大学地域支援グループ 岸本班	
20	KITAQ∞『絆』復興応援プロジェクト	
21	防犯・防災プロジェクト(MATE's)	
22	ハッピーバースデープロジェクト	
23	子ども食堂応援プロジェクト	
24	桜丘小学校学習支援プロジェクト	
25	国際交流プロジェクト FIVA	
26	食べる国際貢献プロジェクト TFT	
27	『食』から学ぼうプロジェクト	
28	地域クリーンアッププロジェクト	
29	青空学プロジェクト	
30	「ブンガクの街北九州」発信プロジェクト	
31	いぬねこプロジェクト	
32	平和の駅運動プロジェクト	
33	まち美化魅力向上プロジェクト Clear	
34	若園保育所「英語で遊ぼう」	
35	JOB×Project	
35	施設での学習支援	
36	黒崎駅周辺清掃	
38	クラフト卓球で留学生と国際交流	
40	出張ラボ	
42	ミライキッズ九州	
44	新聞記事	
46	学生と地域活動を希望される皆さまへ	

この冊子は、北九州市立大学の学生が、北九州市への関心を高めると同時に、シビックプライドを醸成するために作成されたものです。

シビックプライドとは、「まちに対する市民の誇り」を意味します。

北九州市立大学の学生が北九州市について誇りを感じるためにはどうしたらいいか、と考えたとき、このまちには魅力ある地元企業がたくさんあるということが、肝になってきます。

なぜなら、地元の企業には、その地域の市民として、社会的な信頼を獲得し、このまちや地域をより魅力的にするために、まさしくシビックプライドを持って活躍しているからです。

だから、学生にとって、このまちにある企業や団体の活躍を知ることは、

その組織で働く人たちのシビックプライドを感じるための、とても重要な契機にもなりますし、

そして何よりも、大学生の次のステージのひとつである

「就職すること」、「働くこと」を実感する大きなきっかけとしてもあります。

だからこの冊子は学生の北九州市へのシビックプライドを醸成するために

「働くこと」や「地域で活躍すること」をテーマにして作られています。

地元で活躍する働く人たちや北九州での就職を希望する学生にインタビューし、

このまちで働くことの魅力やこのまちについて、その思いを語っていただきました。

地域共生教育センターに多大なサポートをしてくれている企業の方はもちろんのこと、

普段この地域、大学で活躍されている方たちが、どんな風に北九州のことを考え、

この地域で働き、活動しているか、その一端について、

この冊子を通して感じてもらえたら幸いです。



北九州市の魅力的な企業を紹介 COMPANY × STUDENT

地元企業で活躍する人たちと
北九州市で働きたい学生に
北九州市で働く魅力について伺いました。

コスモ海洋株式会社

北九州市立大学の地域活動を応援してくださっている
コスモ海洋さんにインタビュー！



御社の事業内容についてご説明ください。

金丸さま：弊社では海洋測量調査、危険物探査、潜水工事、海洋土木工事を行っています。海洋測量調査は、船舶の安全航行のための水深測量や潮流、波高の計測を行います。危険物探査は、戦時中海底に沈んだ砲弾や機雷を磁気探知機で探査します。潜水工事は、接岸された船舶を保護する防舷材(大きなゴム板)の交換などを行い、海洋土木工事は水深が浅くなった箇所の浚渫工事や、海中構造物、例えば消波ブロックや栈橋の製作・設置工事などを行っています。

御社と北九州との関わりについてお聞かせください。

金丸さま：市内各所で調査や工事を行っています。船舶が安全に入出港できるための水深が確保されているか、護岸に損傷など無いか等の調査です。響灘での洋上風力発電所建設に伴う埋立て工事や、洞海湾にかかる若戸大橋のたもとでの漁港の護岸撤去工事、北九州空港の滑走路拡張工事に伴う測量なども行っています。私は、門司区に縁のある若手経営者が定期的に情報交換を行う【港門会】に所属しています。また、当社の社長は北九州小倉東ライオンズクラブに所属し、奉仕活動の一環として特別支援学校に図書を寄贈したり、北九州市民球場で野球教室を開いたりしています。

御社は大学生の地域活動に対し積極的にサポートしてくださっています。
そのきっかけや思いを聞かせてください。

金丸さま：そうですね。北九州市立大学地域創生学群の学生さんとは門司商店街活性化プロジェクト「モノはうす」の活動をきっかけに知り合いました。この活動では学生たちが門司の魅力的な人や情報を発信していました。私はやはり様々な地域から来てくれる人たちや地元を愛してくれる人たちと交流を深め、北九州の魅力を伝えたいです。また就職先があれば彼らに北九州にいてもらいたいですね。

私たちは北九州のフロントランナーを自負しており、ネットワークもあります。ですから、何か困ったことがあれば御用聞きじゃないですが、コンシェルジュ的な役割が果たせたらと考えています。それから、北九州の魅力がまだまだ発信しきれていないので、もっと伝えていきたいです。私は進学と就職で北九州を離れていましたから、地元住民の知らない北九州の魅力が、逆に、発見できるんだと思います。

漆島・尾澤：なるほど。



北九州の大学で学んだ学生の中には、北九州で就職を考えている人もいます。
北九州で働くことの魅力は何だと思いますか？

金丸さま：県外から北九州に戻ってきたとき、北九州の本当の良さがわかりました。仕事をするには交通渋滞もなく通勤しやすいですね。それから、安くておいしいものがいっぱいあります。あとはおもてなしの心を持った人が多いです。この土地でしか味わうことのできないものを是非体験してほしいです。



尾澤：住みやすさも大事ですね。

金丸さま：弊社の従業員は交通のアクセスが良いので、レンタカーを借りて日帰り温泉に行ったりしているそうです。山と海に囲まれていますから、あまりお金をかけずに気軽にレジャーが楽しめます。あと、北九州は気候も良いのですが、天災があまり発生しないというのもこの地域の特徴ですね。

これから社会人となる若者とどのような未来、どのような北九州をつくっていきたいとお考えですか？

金丸さま：私の好きな言葉に「不易流行」があります。この言葉を若者に伝えたいです。それは、「根本的なことは変えてはいけない。一方で時代は急速に変化するから、本質は大事にしつつ、どんどん変えて行きましょう」ということです。私は行動して、実際に自分の目で見て、体験したことを発信、共有したいと思っています。また、北九州のネガティブなイメージを払拭したいですね。北九州は高齢者が多いとよく言われていますが、ご高齢の方と子ども達が地域で共に暮らしているからこそ、その土地の歴史を学ぶことができるんです。私の知らないこともご高齢の方はいろいろご存知です。ですから、ご縁があった場合は地域のご高齢者をいい意味で巻き込んで、歴史を継承できれば素晴らしいと思います。住めば都ですよ。転勤などで北九州に来た人は離れたくないと言っています。北九州はちょうどよいコンパクトシティです。地元に戻ろうと思えば、新幹線でも飛行機でも気軽に帰れますよね。

これからの進路を考える学生に対してメッセージをお願いします。

金丸さま：思い立ったら絶対に行動したほうがいい。どんな仕事をするにせよ、経験が乏しければ苦労することも多いと思います。だから思い立ったらぜひ行動してほしいです。

大学での勉強も、自主学習ももちろん大切ですが、大学生になると自分で自由に使える時間があると思いますから、社会に出る一歩手前の段階でアルバイトでも、ボランティアでも、地域貢献につながる活動をすると思生人の肥やしになると思います。自宅に閉じこもりがちにならず、地域に出て、人と会って、知り合って、色々お話をしていく。このような経験を重ねると、これまでに全く知らなかった地域のこと、地域の取り組みについて知ることでもできますし、いろいろな人生や考えに触れることができ、精神的に強くなります。逆に私が地域の方に教える機会になったりもします。お互いに相乗効果があっていいじゃないですか。

Interviewee



コスモ海洋株式会社
専務取締役
金丸 哲士

interviewer



地域創生学群
3年
漆島 百萌

interviewer



地域創生学群
3年
尾澤 あかり

株式会社ウチャマホールディングス

子ども食堂でのボランティア活動でお世話になっている
ウチャマホールディングスさんにインタビュー！

御社の事業内容についてお聞かせください。

山本専務：当社は、ウチャマホールディングスという親会社の下に事業子会社が2社あります。ひとつはカラオケと飲食事業をしております。「コロッケ倶楽部」はご存じですか。

宮川：幼い頃からお世話になっております(笑)。

山本専務：ウチャマホールディングスは宮川さんが幼い頃からある「コロッケ倶楽部」の会社なんです。もうひとつは「さわやか倶楽部」で介護事業を行っています。また、インドネシアで合併会社を現地法人とつくり、日本語教育を現地の人に提供し、日本に技能実習生として受け入れる事業も行っております。

宮川：インドネシアでは介護とは別の事業を行っているのですか。

山本専務：そうですね、基本的には国内企業からの技能実習生受け入れの要望に応じて、日本語教育のプランを立ち上げ、生徒を募集し、教育を施して受け入れています。私たちのような介護事業会社に来てくれる実習生もいますが、日本は人手不足もあって、農業やホテルなど受け入れ分野は多岐に及んでおります。



御社と北九州との関わりについてお聞かせください。

山本専務：弊社の創業者は内山文治で、会社を創めたのが1971年です。その頃は不動産会社でした。創業前、内山は米屋の2代目として南小倉駅前でお米屋さんをしていましたので、北九州との関わりは長いですね。

宮川：今でも北九州とは関わりが深いのですか。

山本専務：どの事業も拠点数は北九州がいちばん多いですし、地元でもありますので、北九州発信で様々な未来の創造が出来たら素晴らしいと思っております。

宮川：今は不動産のほかに、サービス業も展開しているということですが…。

山本専務：平成初めのバブル崩壊後はとても大変でした。取引先とのゴルフコンペで「カラオケは儲かる！」という話を聞き、視察しました。当時は空き地に貨物列車のコンテナを置いたカラオケボックスが主流でしたが、自社の貸しビルがたくさん空いたので、この機会にカラオケボックス事業を始めました。ビル内部併設型のカラオケボックスがない時代だったので、ヒットしました。それが今のカラオケの先駆けとなり、地元北九州を中心に店舗を広げるきっかけになりました。

宮川：そこから飲食業や介護事業を展開されたのですね。

山本専務：カラオケボックスが入居したビルの一部のフロアが空くなどしたため、そこで居酒屋を始めることにしました。居酒屋とカラオケだと親和性もあります。

しかし、介護は全く別物です。2000年に介護保険法が成立したことから民間企業が介護業界に参入しやすくなりました。内山が社会福祉法人の理事長を務めており、当法人が介護事業をしていたため、ある程度ノウハウを持った状態で老人福祉の分野に参入したという経緯があります。2003年に有料老人ホームを立ち上げ、2004年に株式会社さわやか倶楽部を設立しました。

子ども食堂運営事業についてお聞かせいただけますか。

小橋さま：2017年11月頃だったと思います。ニュース番組などで子ども食堂の存在を知り、調べ始めていました。子ども食堂を調べるなかで支援対象が子どもに限らないことがわかり、子ども食堂こそ地域に根付いた支援だと感じました。行政と連携し、子ども食堂の運営を始めたのが2018年6月です。小倉北区の足立地域と富野地域の各市民センターを利用し、子ども食堂を開始しました。はじめはわからないことも多かったのですが、子ども食堂ネットワーク北九州^(注)に加入し、子ども食堂の運営者の方々と知り合うことができ、運営の仕方や情報の共有ができる環境を整えることができました。「子ども食堂は第4の居場所だ」と言われます。家庭、学校、児童クラブや塾などの習い事の次に、第4の居場所として子ども食堂があります。何か悩んでいるとき、誰かと話したい、接したいと思ったとき、誰でもいつでも来ることができる場があるというのは地域にとってとても大事だと思います。子ども食堂の継続的な運営は社会貢献につながります。今私たちが目指すのは産学官連携型の子ども食堂です。企業、大学、行政そして地域住民、子どもたちが参加し、皆が協力して大切な居場所をつくるという取り組みがとても重要だと思います。

(注) 2017年8月、民間を主体とした子ども食堂の活動を展開するため、子ども食堂に関心のある個人や団体がつながりを持ちつつ、課題を克服し、継続した活動として取り組むことのできる環境の整備を目的に創設された。北九州市子ども家庭局子ども育成担当部長が代表を務めており、子ども食堂の主催団体や支援グループらが会員となっている。



北九州で働くことの魅力とはどのようなことだと思いますか。

山本専務：様々なチャンスがあるのは東京だと思いますが、リモートワークが定着しつつあるなか、そのチャンスの違いは無くなりつつあります。地元で働く魅力には「地域の歴史を紡ぐ」ことが挙げられます。地域に長く住まれる方を大事にすると、その地域の文化、歴史を継承できるという意味です。

宮川：地元の企業にとって北九州在住の人材がほしいという気持ちはありますか。

山本専務：あります。弊社の拠点は全国地域にありますが、基本は地元採用です。地域に根ざす産業、経済の活性化という観点から地域で頑張りたい人を採用したいと考えています。北九州ならではの魅力を活かした事業を展開していきたいですね。

進路に悩んでいる学生に対してメッセージをお願いします。

山本専務：やりたいことを探す中でなかなか上手くいかないこともあると思います。第一志望が叶わないこともあるでしょう。だからと言って悲観しないでほしいです。別の道を選んだとしても、それに対して前向きに生きることもできると思います。

小橋さま：私は警察官になるという夢があり、受験しましたが、身長が足りないなどの理由から不合格が3年間続きました。そのときコロッケ倶楽部のカラオケ店でアルバイトをする機会があったのですが、それがすごく楽しかったんです。この経験が現在の仕事を始めるきっかけになりました。仕事は楽しい！と思えたら、本当に楽しくなりますし、必ず続きますよ。

Interviewee



株式会社
ウチャマ
ホールディングス
代表取締役専務
経営企画室室長
山本 武博

Interviewee



株式会社
ウチャマ
ホールディングス
社長秘書
小橋 佳緒里

interviewer



文学部 2年
宮川 実来

地域創生学群 3年 黒澤 紋子さん

北九州市立大学での地域活動を通して北九州での就職を希望するようになった岩手県出身の黒澤さん。どのような思いで活動を行ったのか。また黒澤さんの今後の目標についてもお話いただきました！



黒澤さんは県外から北九州市立大学に進学されました。なぜ本学だったのですか。

高校の担任の先生の薦めと、地元岩手の新聞で地域共生教育センターの東日本絆プロジェクト(現在の「KITAQ∞『絆』復興応援プロジェクト」)の活動を知ったのがきっかけでした。遠方から岩手を応援してくださっていることに感動しましたし、地元を県外から俯瞰して支援活動ができれば、学びも多いのではないかと思います、北九州市立大学の進学を決めました。



北九州に来て感じたことは何ですか？

ふるさとから離れることになりましたが、不安な気持ちはなく、むしろとても楽しみでした。何もわからないからこそ、これから自分で開拓するぞ！という気持ちにあふれていました。

正直なところ、はじめは北九州に関してネガティブなイメージの方が強かったのですが(マスメディアの影響を受けたのかなと思います)、いざ暮らし始めるととても住み心地がよく、想像と現実の違いに驚いてしまいました。北九州に暮らす人たちは気さくで、親切で、温かい。また、外出すれば交通の便も良いので快適に暮らしています。

学内外でどんな活動をされてきたのでしょうか？

まず、北九州市立大学では地域共生教育センターの実習で学生運営スタッフをしていました。2021年1月に引退したのですが、所属していた頃は、地域でボランティア活動をしたい、あるいはしている学生に向けた講座や企画の実施、運営をやっていました。地域創生学群のゼミでは、フットパス^(注)の概念を用いて商店街のまちづくりに取り組んでいます。個人的には北九州で演劇をやっています。人間の思考や振る舞いを観察するのが好きで、演劇やゼミの活動に活かせないか日々考えたりしています。

(注)「フットパスとはイギリスが発祥であり、『森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと【Foot】ができる小径(こみち)【path】のこと」(日本フットパス協会HPを参照: <https://www.japan-footpath.jp/>) (最終閲覧日: 2021年2月16日)

黒澤さんは地域共生教育センターのKITAQ∞『絆』復興応援プロジェクトに所属され、リーダーを務めておられました。具体的にどのような活動をされたのですか？

KITAQ∞『絆』復興応援プロジェクトでは、東日本大震災の被災地を応援するため、小倉発祥の焼うどんに岩手県釜石産のスルメイカを加えた「絆焼うどん」を調理、販売し、売り上げの一部を義援金として寄付してきました。私にとってふるさとと関わることでできる活動でしたので、誰よりもやりがいをもって活動できたと思います。活動当初は岩手県釜石市、宮城県南三陸町が主な支援対象でしたが、現在は熊本県の豪雨災害や九州北部豪雨など九州各地で被災された地域の復興も応援しています。

実習やボランティア活動をするとき、大切にしていたことはありますか？これらの活動を通して黒澤さんが身に付けたスキルや能力のなかで、特に社会人になってからも役立ちそうなものは？

大学3年間で他学部の学生や北九州、東北の地域の方々など様々な立場の人と交流してきましたが、状況に応じて臨機応変にコミュニケーションを取る大切さを学びましたし、コミュニケーションというのを大切にしてきました。よそ者である私、学生が地域の方と信頼関係を構築し、まちの復興やまちづくりと一緒に実現できるようつながりを守り続けることも大事だと思いました。社会人になってからも役に立つと思われるのは、「多様な人と関わり続ける姿勢」です。先入観を極力取り除いて、とにかく色んな人と出会って、お話をする。そうすることで、色んな意見や考え方、価値観に気づくことができますし、私自身のことを学ぶことにもつながります。怖がらずにコミュニケーションを取ることが大事ですね。

黒澤さんは北九州での就職を考えておられると聞きました。なぜ北九州なのですか？

一言で言うなら、北九州にお世話になったから恩返しをしたいということです。地域の皆さんのご協力のもと、実習やボランティアのフィールドや学びの機会を与えてくださっているからです。私は社会人になったとき、その恩返しをするタイミングだと考えています。北九州でまちづくりに懸命に取り組む方々と一緒に仕事をしてサポートするだけでなく、北九州のことをもっと学ぶなかで得られた経験をいつか地元の岩手にも還元できればいいなと思っています。

北九州で暮らし、働くことで将来的にどんな北九州にしたいですか？

私がこんなに北九州を語っていいんだろうかと正直思うんですが(笑)、北九州の市民のみなさんが、北九州で暮らすことに満足し、ひとつでもいいから何か地域で誇りに思うことがある、というまちにしたいです。食べ物でもいいし、人でも、どんな特徴でもいいです。県外出身者として、また北九州と市外をつなぐ色んな活動をしてきた経験を活かし、まちづくりに参画したいです。北九州以外に暮らす人たちが「北九州って魅力的だな」と思ってもらえるように。

最後に黒澤さんの今後の目標についてお聞かせください。

北九州市立大学に入学し、学内外で様々な活動を経験するなかで思うようにいかないことや、我慢しなければならないことがありました。特に何が本当の答えなのかよくわからない状況にも頻繁に直面してきました。コロナ禍だとなおさらだと思います。そんなときは、一人で抱え込むのではなく、まわりの人たちにも相談して、よく話し合っ、色んな方法を模索して、今のベストを見つけ出せるようにになりたいですね。

Interviewee



地域創生学群
3年
黒澤 紋子

interviewer



地域創生学群
1年
江口 千里

interviewer

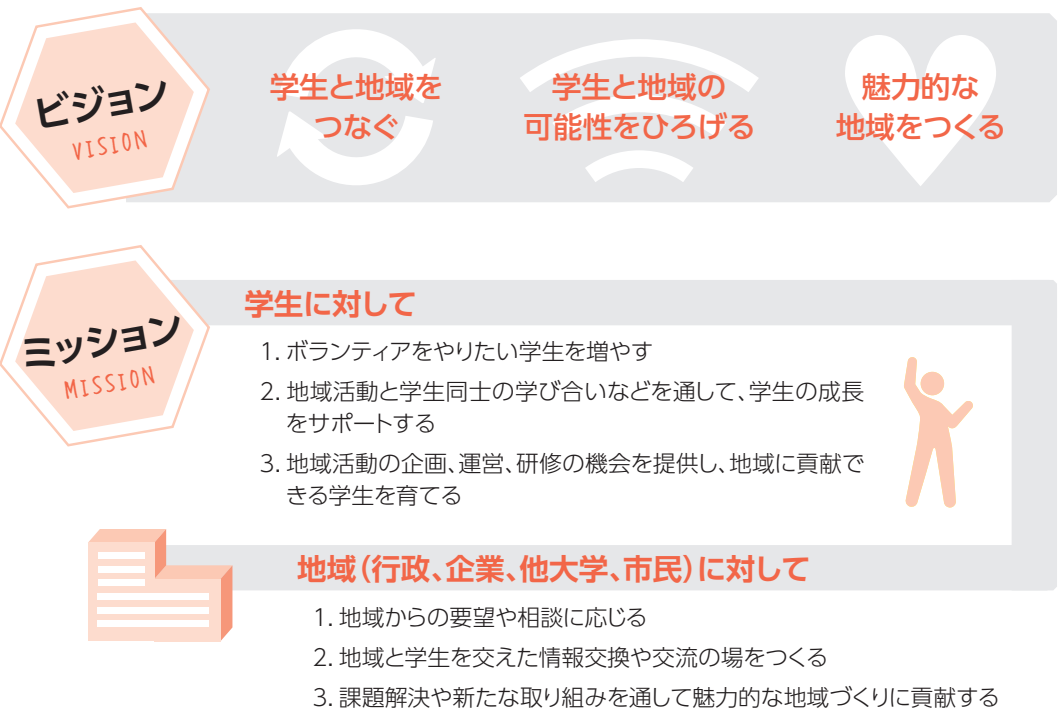


地域創生学群
1年
山下 陽菜

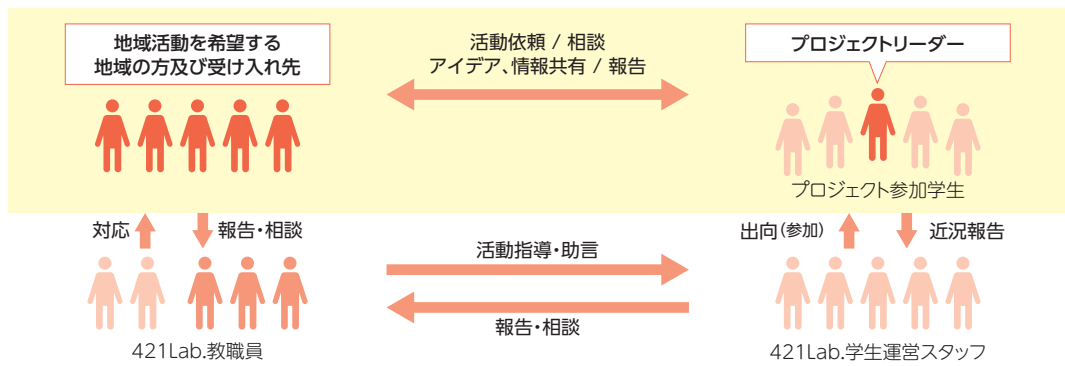
地域共生教育センター (421Lab., ヨン・ニー・イチ・ラボ) とは

地域共生教育センター (通称:421Lab.) は

- 北九州市立大学における全学的な教育機関です。
- 2010年4月21日に設立されました。
- 地域貢献したい学生、地域の今を学生と一緒によりよくしたい地域の方々をサポートします。
- 北九州市内だけでなく、国内外を含む様々なフィールドで、魅力的なまちや社会づくりに貢献する地域での実践活動を展開しています。



421Lab.組織図



421Lab.の地域活動について

大きく分けて3つのタイプの地域活動があります。

	プロジェクト型	短期型	連携型
テーマ	食育、環境保護、国際交流など様々なテーマを持つ。全部で16プロジェクトある (2021年3月時点)。	地域の要望によって様々。	様々。連携機関同士で話し合い、決定できることもある。
内容	年度初めに目標、計画を立てて実施。活動だけでなく、定期的なふりかえりと成果報告を大切にする。	地域の要望によって様々だが、イベント行事の補助や企画運営が多い。	県内外の比較的大きな団体、組織との共同企画運営が多い。
対象学生	主に新入生	全学部・学群 学年も問わない。	活動内容による。
活動条件	原則、学生は2つ以上のプロジェクトに所属できない。(学生運営スタッフの出身を除く)	特になし。条件が合えば、繰り返し応募可能。	活動内容による。
申込時期	主に4月～5月 (随時募集を受け付けているプロジェクトもあり)	随時 (時期によって募集状況が異なる)	随時 (時期によって募集状況が異なる)
活動期間	主に3年生の後期まで	活動内容によって異なる。半日～1日単位のものが多い。	活動内容によって異なるが、比較的長期間のものが多い。

421Lab.の歩み

2010.4.1	地域共生教育センター設立
2010.4.21	地域共生教育センター開所式
2010.9	広報誌「FULL」創刊 第2回北九州学生プレゼン大会で「会頭賞」(最高賞)を受賞
2011.3.11	東日本大震災が発生
2011.4.21	東日本大震災関連プロジェクト立ち上げ
2012.3	ふくおか共助社会づくり表彰 (福岡県) 地域貢献活動部門賞を受賞
2012.10.10	登録学生数が1000名を達成
2013.2	ふくおか地域づくり活動賞を受賞
2013.7.11	防犯・防災ボランティアプロジェクト 福岡県防犯協会連合会と福岡県警より表彰
2014.3.23	東日本大震災関連プロジェクト「福岡県防災賞 (知事表彰)」を受賞
2014.7.11	防犯・防災プロジェクト 福岡県防犯協会連合会と福岡県警より表彰
2016.1.23	第三回地域活動発表会 (大学教育再生加速プログラムフォーラム)
2016.2.10	防犯・防災プロジェクト 福岡県小倉南警察署長より感謝状を受賞
2016.4.1	緊急時災害支援チーム発足
2016.4.14	熊本地震が発生
2016.5.2～5	熊本地震災害支援 第一次派遣
2016.5.28～6.26	熊本地震災害支援 第二次派遣 (計5回実施)
2016.7.14	熊本地震派遣学生報告会
2016.10.1	防犯・防災プロジェクト 福岡県防犯協会連合会会長と福岡県警察生活安全部長より表彰
2016.10.21	防犯・防災プロジェクト 北九州市長より安全・安心に関する活動団体表彰
2016.10.8～10	平成28年度公立大学全国学生大会 (LINK topos) 運営
2016.11.27	ふくおか地域づくり活動賞を受賞
2017.2.14	第四回地域活動発表会 (大学教育再生加速プログラムフォーラム)
2017.7.5	九州北部豪雨が発生
2017.7.15～17	九州北部豪雨支援 第一次派遣
2017.8.5～8	九州北部豪雨支援 第二次派遣
2017.11	平和の駅運動プロジェクト ふくおか地域づくり活動賞を受賞
2018.3	緊急時災害支援チーム「福岡県防災賞 (知事表彰)」を受賞
2018.12.25	ふくおか共助社会づくり表彰 (福岡県) 地域貢献活動部門賞を受賞
2020.1.16	「食」から学ぼうプロジェクト 北九州市健康づくり活動表彰市長賞 (地域団体部門) を受賞
2020.3.10	「食」から学ぼうプロジェクト 農林水産省食育活動表彰ボランティア部門《大学等》消費・安全局長賞を受賞
2021.1.23	子ども食堂応援プロジェクト 第13回ふくおか地域づくり活動賞を受賞
2021.2.13	子ども食堂応援プロジェクト 第15回SYDボランティア奨励賞「文部科学大臣賞」を受賞
2021.3.1	平和の駅運動プロジェクト 2020北九州SDGs未来都市アワード「SDGs賞」(市民部門)を受賞

PROJECT 1

421Lab.学生運営スタッフ

地域と学生を繋ぐ教育機関

リーダー

地域創生学群 地域創生学類 3年
藤野 紗江

プロジェクト人数

45名

活動開始時期

2010年4月～

活動頻度

月に8～10時間程度、
毎週火曜日など

連携・受入団体

北九州市内の行政機関、
民間組織・団体など

主な活動場所

北九州市立大学地域共生
教育センターおよび市内各所



地域共生教育センター（通称:421Lab.）は、学生の力を必要とする地域と地域活動を行いたい学生をつなぐ架け橋のような役割を担う教育機関です。421Lab.に所属する学生運営スタッフは、全学部・学群の北九大学生に対して、地域活動を通して貴重な学びを得てもらうために「地域活動の魅力を発信し、活動しやすい環境を整える」という目的のもと、どうすれば学生や地域のニーズに応えることができるか真剣に考えながら日々活動を行っています。

今年度の活動の内容と成果

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、対面の活動が一時的に制限されたため、例年に比べて活動内容が変わりました。

最初は急な状況の変化にうまくついていけず、活動が滞る時期がありましたが、このような状況下でも私たちは様々な活動に取り組んできました。例えば小学生に対する大学案内や広報誌作成に向けたインタビューをオンラインで行う、活動制限がある中で、どのように地域活動をすればいいかわからない学生の声を聴き、プロジェクト間の交流研修を実施するなど、状況に応じて活動を企画・実施してきました。

これらの活動を行うことで、臨機応変に判断したり、行動する力や他者のニーズを汲み取り、状況や悩みに応じた企画を立案する能力がより一層身に付いたと感じています。オンライン開催という選択肢を得たことによって、学生同士の連絡調整がより円滑になったと思います。また、例年に比べて学生の作業量を随時分散することや、リアルタイムではなくオンデマンドという方法を採用することで、参加者の都合に合わせたイベント開催が実現しやすくなりました。

活動を振り返って、今後の展望

2019年まではオンラインで企画を実施したりミーティングを行ったりすることはありませんでした。しかし、今年度の経験を通してオンラインでの活動という選択肢を得ました。オンラインでは対面でのコミュニケーションに比べて欠点や苦勞することもあります、オンラインならではの長所もあります。それは、インターネット環境が整っていれば、出先や家からでもミーティングや活動に参加することができるので、参加者が集まりやすいという点です。今後も状況に応じて、オンライン開催をうまく取り入れたいと思います。



青嵐祭出店(2019年度撮影)



オープンキャンパスで実習説明(2019年度撮影)



地域活動発表会(2019年度撮影)

プロジェクト支援グループ 那須班



プロジェクト支援グループ 那須班では、学生プロジェクトの活動をサポートしています。前期と後期において、それぞれスタートアップ研修、ふりかえり研修を行い、最後に継続研修を実施しました。これらの研修参加を通して、学生の地域活動に対する意欲を維持・向上させることを目的としています。今年度はオンライン形式で研修を実施しました。

班リーダー

法学部 政策科学科 3年
那須 晴花

班人数

8名

プロジェクト支援グループ 亀本班



42ILab.のプロジェクト生に対して、必要な知識や技術を指導・提供する班です。亀本班は同じグループで活動しているもうひとつの那須班に比べ、必要に応じた講座をひとつに絞って開催しています。今年度はパワーポイントやエクセルの効果的な使い方を学ぶ講座を実施しました。1年間で計5回の講座を開催しました。

班リーダー

地域創生学群 地域創生学類 3年
亀本 明日香

班人数

8名

プロジェクト交流研修

新型コロナウイルス感染症の影響により、なかなか思うように活動できないプロジェクトを対象に、活動について情報共有する機会を提供しました。しかし、プロジェクトの活動状況はばらつきがあり、活動できているプロジェクトと全く活動ができていないプロジェクト(普段の活動先がコロナの影響を受け、合同で活動が実施できないなど)がありました。私たち学生運営スタッフが各プロジェクトの活動について事前に情報を得ていなかったため、全プロジェクトの要望に沿ったかたちでの研修には至りませんでした。一方で、1年生にとっては初めてとなる研修の企画運営、参加でしたが、無事に終了することができました。

今後の展望、来年度の目標として、オンラインのメリットやデメリットを考慮した上で、当日の進行が円滑に進むようアイスブレイクを工夫したいと考えています。また、全プロジェクトの活動状況について事前調査を済ませた上で、プロジェクトリーダーだけでなく、地域活動に参加する学生も対象に研修が開催できるよう事前準備もしっかりと行いたいです。

42ILab.学生運営スタッフ向け後期ふりかえり研修

2020年12月22日、対面による学生運営スタッフ向けの研修を開催しました。1年間の活動のふりかえり、今年度の活動を来年度どのように活かしたいか考えました。当日パワーポイントを使用し、司会進行を行ったのですが、あまり慣れていないため進行がごちなくなってしまう、参加者の注意を向けることも、タイムスケジュールを管理することもうまくできませんでした。しかし、那須班の各学生が作業内容を理解し、助け合うことで無事に研修が終了したので安心しました。大勢の参加者に向けて話すことはひとつの大きな経験になりました。

来年度の目標として、次回の研修では受講生の視点を意識し、臨機応変に対応したり、研修で最も伝えたいことを明確に示したいと思います。

OB・OG会

2020年12月15日、42ILab.の元学生運営スタッフ4年生4名に、ご登壇いただき、主に地域活動や就職活動のご経験についてお話をいただきました。

4年生は下級生の身近なロールモデルです。参加した42ILab.学生運営スタッフ1、2年生は運営スタッフとして今後どのように活動に取り組むか、自分自身の将来をリンクさせて考えることができました。3年生はこれからの就職活動や卒業後のキャリアを見据えた意見やアドバイスをいただくことができました。講座終了後も4年生と話している3年生は就職活動の詳しい話を熱心に伺っていました。とても充実した交流会になったと思います。

ただ、交流時間が限られており、ひとつの質問に対してより詳しい意見をいただいたり、考えを深めることまでは実現できませんでした。

次回、同様のイベントを実施する際には、時間配分に気をつけることや参加学生から先輩に聞きたい事を事前に確認しておき、本番の受け答えが円滑になるようにするなど、登壇者と参加学生の交流がもっと充実したものになるようにしたいです。

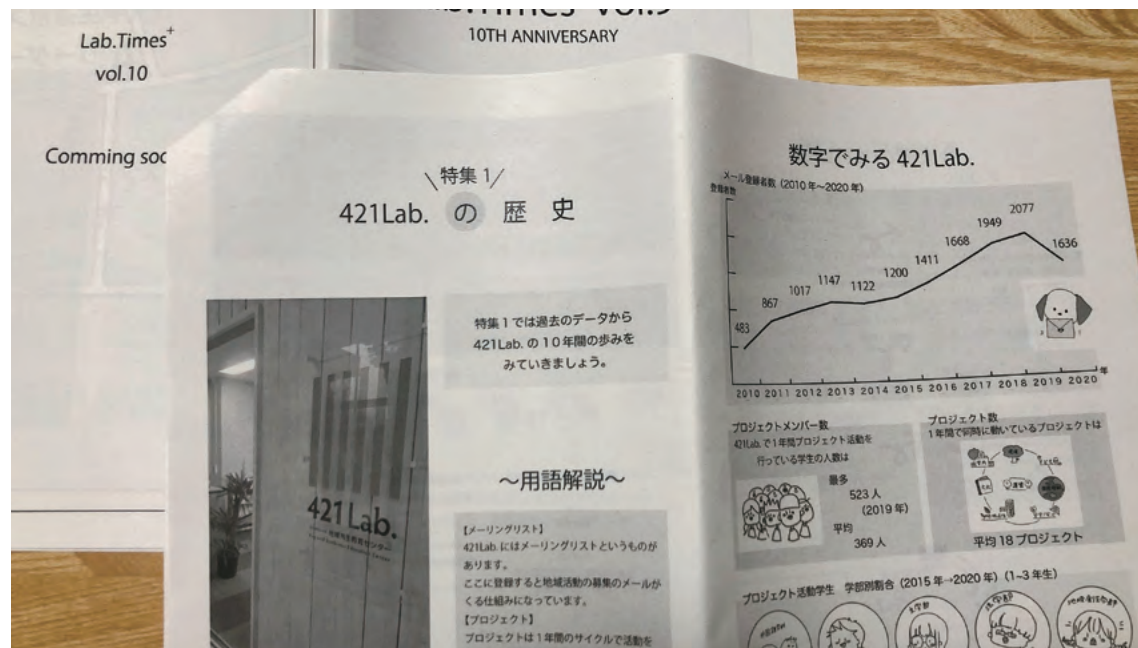
パワーポイント講座

本講座は、今年度初めて実施しました。1年生に対して活動の大まかな流れやプロセスを説明することで、スムーズに活動できるよう心掛けました。42ILab.学生運営スタッフは、新規プロジェクト生の勧誘や地域活動の現場でパワーポイントを使用する機会が増えます。そこで、パワーポイントの基礎と応用について学ぶ講座を実施しました。2019年度も同様の講座を実施することがありました。

今年度は1年生が上級生とペアになり、わからないことがあれば先輩にすぐに質問できるような環境をつくりました。オンラインでの開催だったため、受講者が話の内容を理解できるか、置いてきぼりにならないか、はじめは不安でしたが、事前練習を入念に行ったため、当日は問題なく実施できました。パワーポイントの使い方を示すなど、実践的な内容になればなるほど、遠隔で伝えることは難しいように感じました。

今後、遠隔で講座をする場合、実施方法を再検討したいと思います。

ラボ支援グループ 尾澤班



ラボ支援グループでは、主に広報誌を作成しています。Lab.Times+ (ラボタイムズプラス) という地域活動情報誌を作成しており、地域のことや421Lab.で活動しているプロジェクトを取り上げ、地域の方々や大学生へ情報発信しています。

班リーダー

地域創生学群 地域創生学類 3年
尾澤 あかり

班人数

5名

ラボ支援グループ 西村班



ラボ支援グループでは、421Lab.学生運営スタッフの活動を裏方からサポートしています。学生運営スタッフ向けの研修企画や421Lab. のプロジェクト活動を含めた全体活動を学内外に周知する広報誌の作成などを行っています。

班リーダー

地域創生学群 地域創生学類 3年
出光 真侑

班人数

7名

Lab.Times+vol.9について

Lab.Times+vol.9では、同じくラボ支援グループの西村班が作成している、vol.10とあわせて421Lab.設立10周年を記念した広報誌づくりに取り組みました。421Lab.という教育機関について触れた特集号です。特に421Lab.で実施してきた過去10年間の活動の歴史について取り上げています。今回は初となるリモート作業を取り入れ、普段以上に役割分担に力を注ぎました。

今回の反省点としては、メンバー同士であまり頻繁に連絡が取り合えなかったことです。作業の進捗状況について情報共有が疎かになってしまいました。円滑なリモート作業を実施するためには、お互いの状況が見えにくいからこそ、定期的なやり取りや相談、調整が重要であることを実感しました。この反省から、メンバーと連絡を密に取り、タスクの進捗状況やスケジュールの達成度を確認し、共通の理解を得ることが必要だと気づきました。

今年度のチャレンジとして、リモート作業を取り入れたところ、自宅でも問題なく広報誌が作成ができることがわかりました。次回からは今回の反省内容を改善しつつ、来年度もリモート作業を取り入れ、広報誌作成に励みます。

北方市民センターだよりについて

北方市民センターが発行している「市民センターだより」において、2ヶ月に1回、北九大通信コラムを掲載しています。具体的には、地域の方々へ大学について知っていただくため、学内イベント情報や大学生活の様子などを紹介しています。コラム執筆担当を1年ほど続けており、その経験から学んだことは、継続的に物事を実行することで情報収集力や文章力がブラッシュアップされることです。限られた文字数の中で漏れなく、正確に情報を伝えるのは難しいですが、コラム執筆を通してどんな情報が必要か、だんだん見極める力が身に付きました。

3年生は後輩へ作業の引き継ぎを行います。北方市民センターとのつながりを継続し、微力ながら地域の発展に貢献できればと思います。

班内の交流促進

今年度の活動では「班メンバー同士の交流」を大切にしました。前期の活動はリモートでスタートしました。遠隔の間では、新入生と2・3年生とのコミュニケーションが十分に取れず、お互いに遠慮しがちな状況が続いていましたので交流会を開催しました。交流会は、大学に入学したてで大学生活に不慣れな新1年生を中心に、421Lab.の実習活動の内容について話ただけでなく、プライベートな話題も含めてざっくばらんに会話できるようなかたちで行いました。

2021年度もコロナウイルスの影響で、リモートでの活動になる可能性は十分に考えられます。その場合は、今年度実施した遠隔企画の内容を見直したり、もっと工夫することが必要です。反省点としては、ファシリテーションの仕方が誰が行うかなど事前準備をしっかりと行い、作業についてわかりやすく説明すべきだったことです。また、企画は緻密に計画し、参加者への呼びかけも大事にして、イベント実施の効果が広く全体に行き渡るようにしなければならないと思いました。

基礎知識の獲得:論理的に物事を伝える力

ラボ支援グループが制作する、広報誌「Lab.Times+ (ラボタイムズプラス) vol.10」を作成するにあたり、作成上のポイントを理解してもらうためのイベントを実施しました。班のメンバーの半数は初めての制作だったため、作成練習も兼ねて行いました。

イベント実施後の反省点としては、活動目的が不明確だったことです。Lab.Times+作成において、一番苦労したことは、パソコンのソフトであるイラストレーターの使い方を理解しなければ、広報誌が作成できないことです。来年度は、イラストレーターを用いたデザイン設計について学生同士で勉強会を開くことができればと考えています。班メンバーの所属するプロジェクトの活動内容が一目でわかるようなチラシ作りに挑戦したり、単なる知識や情報の収集に終わらない、実践活動も取り入れることを検討しています。そうすることで広報誌作成のスキルがより身に付くと思います。



～企画を通じた地域活動の発信～

大学地域支援グループでは、多世代交流を推進する地域活動を中心にを行っています。いきいき子ども講座(対象:小学生)、元気塾(対象:高齢者)、青嵐祭(対象:大学生)、コラボキャンパスネットワーク(対象:高齢者、子育て世代、幼児)の企画運営、サポートをしています。

班リーダー

地域創生学群 地域創生学類 3年
村田 理梨子

班人数

8名



大学地域支援グループは、さまざまな地域活動を通して企画運営能力やリスクマネジメント、情報収集・共有、協調性など、社会で必要となる知識やスキルを学ぶことができます。また、学生自身がイベントを一から企画することもできるので、自由に活動できる環境が整っています。

班リーダー

地域創生学群 地域創生学類 2年
岸本 寧大

班人数

9名

いきいき子ども講座

2020年度、初めてとなる学外活動はいきいき子ども講座でした。コロナ感染対策を徹底することで、地域でも対面で住民のみなさんと交流することができました。

例年いきいき子ども講座では学生が企画運営を担当していたのですが、今回は北方市民センターのご担当者さまとコロナ感染予防策を講じながらどのような遊びが実施できるか協議を重ねました。今回は子どもたちが走り回ることや、他者との接触を避けなければならないなど考えなければならないことが多くあり、大変でした。それでも何とか企画を仕上げ、本番を迎えました。

講座当日、コロナウイルス感染症の影響が想像していたよりも大きかったのか、参加した小学生の人数が思っていたよりも少なかったのですが、13人の子どもたちが来てくれたのはとても嬉しかったです。例年と異なり、会場をゆったりと使うことができましたし、アルコール消毒や接触回避など感染対策も十分に実施できたと思います。子どもたちの様子を見ると、一つひとつの遊びを全力で楽しんでいました。さまざまな制約があるなかでも、私たちも子どもたちとの交流を思いっきり楽しむことができました。

今年も「いきいき子ども講座」のお手伝いできて良かったです。来年度も状況に応じた活動を行い、地域の子どもたちの期待に応えたいと思います。

クリスマス会

コラボラ学生部として、私たちはコラボラキャンパスネットワーク主催のクリスマス会やフリースペース「ハロハロカフェ」、小倉南区親子ふれあいルーム「さざん」(乳幼児子育て交流の場)へサプライズで登場し、学生企画のクリスマスパフォーマンスを行ってきました。

現場ごとに主催団体が異なっていますが、今回も協働で活動を実施することができました。「報告・連絡・相談」を徹底したことで、円滑にイベントを企画・実施することができました。対象年齢を考慮し、パフォーマンス内容としては難易度の異なる2冊の大型絵本を用意し、読み聞かせをしたり、子どもたちと手遊び、ダンスを一緒にしました。子どもたちはまじまじと絵本を見つめたり、小さな手をいっぱい広げて手遊びを楽しんだり、おもちゃで大学生と一緒に遊んでくれたりしました。「交流の場を企画した意義があった」と思える場面が多く見受けられました。

今後は子どもたちの年齢や今できることを十分に考慮した上で、コラボラ学生部主催の企画を提案していきたいです。

YouTube企画

新型コロナウイルス感染症に伴う自粛等で対面での交流が制限される期間がありました。そこで、地域の子どもたちの不安やストレスを少しでも解消できるように、子どもたちを対象とした動画を作成しYouTubeに投稿する「YouTube企画」を実施しました。企画は2020年6月～8月頃に実施し、岸本班では計7本の動画を公開しました。動画制作を通して、たくさんの学びがありましたが、改善したいこともあります。例えば、企画目的「子どもたちに喜んでもらって、今の不安な気持ちを解消する」が何度もぶれてしまいました。そのとき、班メンバーに対して本来の目的を再確認するよう呼びかける大切さに気づきました。学生自身のモチベーションも高めるため、ミーティング以外でも班内でやり取りを行ってきましたが、計画的に臨機応変に企画を運営する必要性についても学びました。今後もYouTubeの動画制作を企画する場合は、絵コンテの段階から撮影方法、公開まで、しっかり準備をして活動したいです。

岸本班は子どもたちと交流する企画を担当することが多いです。子どもたちが動画を観て、笑顔になった数を集計、分析し、どのようなテーマや内容の動画が子どもたちに喜ばれるのか、その傾向についてもつかみたいと思います。

日本大学豊山女子高等学校とのオンライン交流企画

当初は、東京の日本大学豊山(ぶざん)女子高等学校の生徒が修学旅行で北九州を訪れた際に、42ILab.の活動について発表したり、意見交換するなど交流する予定でした。しかし、コロナウイルス感染予防のため対面交流が中止になり、オンライン交流活動に変更しました。

2020年10月19日、11月6日、11月17日の計3回に渡って、各プロジェクト活動の紹介を行い、地域活動や地域や社会が抱える課題について高校生からの質問に答えたりしました。この交流は、各プロジェクトの活動をふりかえるひとつのきっかけになりました。高校生ならではの意見や考えを聞くことで、普段は気づくことができなかった考え方や価値観を知ることができ、とても勉強になりました。しかし、短期間にたくさんの作業を一部の学生にお願いしてしまったので作業効率が悪くなってしまいました。イベント情報の周知が遅いという指摘も大学生からありました。このことから、時間に余裕をもって、参加者が不安にならないように丁寧に説明すべきだと反省しました。

来年度も学外の方と継続して遠隔交流する場合、作業の担当者と役割を明確にし、スムーズに準備・実施できるように頑張りたいと思います。

PROJECT 2

KITAO∞『絆』復興応援プロジェクト

「学生ができる支援」、「北九州市からできる支援」を
細く長く続ける

リーダー

文学部人間関係学科 2年
日吉田 みずき

プロジェクト人数

20名

活動開始時期

2016年4月～

活動頻度

月に2時間程度
(週1の30分ミーティングを
月に4回程度)

連携・受入団体

お好み焼き いしん

主な活動場所

地域の夏祭りや
イベントでの出店
(今年度はオンライン上での
活動)



東日本大震災をはじめとした災害の風化防止活動、細く長い支援と啓発活動を
続けることで防災意識を高めることを基本理念として活動しています。受け入れ先
である、お好み焼き いしんさんのご協力のもと、イベントに出店をし、売り上げ金
の一部を義援金として寄付しています。これらの活動を通して、被災地の変化して
いくニーズをくみ取り、その変化に対応した支援を考え、実践していきます。

今年度の活動の内容と成果

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、これまで
行ってきた出店ができませんでした。メンバー全員が企画書
を提出し、コロナ禍においても実施可能な復興支援の方法を考
えました。その結果、「食べる班」、「交流班」、「防災班」の3つの班
に分かれて活動を行うことにしました。週1回のオンラインミー
ティングを欠かさず継続することに加えて、各班でもミーティ
ングを行いました。「食べる班」は、絆焼うどんに使われているイ
カについて調べ、仕入れ先である東北のマルワさんと連絡を取
りました。「交流班」は、九州豪雨災害募金箱をつくり、いしんさ
んのご協力のもとお店に募金箱を設置させていただきました。「防
災班」は、災害や震災に関する勉強会を行い、メンバー内で
情報や知識の共有を図りました。また、InstagramとTwitterのア
カウントを活用し、メンバー全員がプロジェクトに関する今ま
での活動や思い出を1回ずつ投稿し、新1年生の勧誘も兼ねた情
報発信を行いました。全てオンラインでの活動になりましたが、
新しい活動をメンバーで模索して、かたちとして少しでも残せ
たことが一番の成果です。また、東京の高校生と2回にわたり、オ
ンライン交流会を行いました。私たちが疑問に思う風化防止に
ついて高校生と意見交換を行い、本プロジェクトについて知っ
ていただく貴重な機会を得ることができました。

活動を振り返って、今後の展望

今後は、オンラインミーティングで企画した内容を対面で実
施できるようにしたいです。また、1年生が増えたので、これまで
行っていた出店時の売上金の寄付というこれまでメインだった
活動を実施したいと考えています。場合によっては、コロナウイ
ルス感染拡大などの影響で出店活動に影響が出るかもしれま
せんが、今年度の経験を活かして、新しいかたちで被災地の力
になれるよう活動を継続していきたいと思います。



2019年8月撮影

PROJECT 3

防犯・防災プロジェクト(MATE's)

防犯・防災意識向上の“きっかけ”づくり

リーダー

法学部 法律学科 3年
大西 悠登

プロジェクト人数

31名

活動開始時期

2010年5月～

活動頻度

月に6時間程度

連携・受入団体

北九州市役所、
NPO法人好きっちゃ北九州、
小倉南警察署、区役所、消防署、
福岡県庁など

主な活動場所

北九州市内の小学校、
市民センター 等



「北九州を学生の視点から安全・安心なまちにしたい」そんな思いから、防犯・防
災という切り口で活動を行っています。メンバー一人ひとりが他人事ではなく自分
事として「まちの安全・安心」について考え、万が一のとき、ベストな行動がとれるよ
うに、防犯・防災の視点から地域へ入り、コミュニティの活性化を図っています。

今年度の活動の内容と成果

今年度はコロナ禍での活動だったため、試行錯誤の連続でし
たが、「地域安全マップづくり」に関して大きく2つのことに挑戦
しました。

1つ目が学習用ビデオ作成です。安全マップの学習内容であ
る「場所に注目した防犯」について、子どもたちに楽しみなが
ら学んでもらえるよう、クイズを用いた学習ビデオを作成し、
YouTubeに投稿しました。この活動は他団体よりコロナ禍にお
ける活動モデルとして評価されています。

2つ目はデジタル防犯マップの作成です。北九州市立大学周
辺でグーグルアースを用いて町歩きを行い、サイト上でデジ
タル安全マップを作成しました。これを新しい地域安全マップの
かたちとして、県や市役所など行政と連携・協議をしながら活動
を進めていきたいと考えています。

また、今年度の活動を通して得られた成果は、「コロナ禍での
活動のノウハウが身についたこと」です。よって、今回の学びや
経験をもとに、来年度はさまざまなことに挑戦し、活動の質・幅
ともに広げていきたいと思っています。

活動を振り返って、今後の展望

今後の展望については大きく2つあります。
まず、「コロナ禍での活動の拡充」です。今年度は初めてのこ
とが多く、失敗が多々ありました。そこで来年度は、今年度の学
びをふまえ、活動の質や幅の拡充を図りたいと考えています。
次に「地域に根差した防犯・防災活動を行うこと」です。現状
課題として長期的に関わる地域が少ないことが挙げられます。
そこで、地域と継続的に関係を築くことで、「防犯・防災意識向
上のきっかけづくりの場を増やすことができ、よりよい地域コ
ミュニティの形成に寄与できるのではないか」と考えています。



PROJECT 4

ハッピーバースデープロジェクト

「誕生日」という特別な機会に
楽しい思い出作りのサポートを！

リーダー

法学部 法律学科 2年
馬場 優佳

プロジェクト人数

10名

活動開始時期

2010年4月～

活動頻度

・毎週水曜日3、4、5限目に活動
・月に1度、第3水曜日に児童クラブへ行き、誕生日会を開催する
(水曜日3限目の時間帯から活動)

連携・受入団体

東朽網放課後児童クラブ

主な活動場所

東朽網放課後児童クラブ、
北九州市立大学内



共働きやひとり親の家庭が増えるなか、子どもたちが楽しめる誕生日会を開催し、放課後の居場所づくりへの貢献を目的として活動しています。具体的には、毎週水曜日に必要な飾りやバースデーカード等をみんなで作成し、子どもたちに1年に1度の誕生日を笑顔で迎えてもらい、楽しい特別な時間を過ごしてもらえよう毎月誕生日会を実施しています。

今年度の活動の内容と成果

今年度は、いつもと違い新型コロナウイルス感染症が流行し、誕生日会が開催できなくなり、対面での活動も厳しい条件の中で実施することになりました。児童クラブの生徒たちも同じく、学校の休校に伴い、児童クラブに通う生徒の人数が少なくなりました。

よって、私たちはこのような状況で、誕生日会が開催できなかった代わりにどうすれば児童クラブのみんなを笑顔にできるのか、プロジェクトメンバーで話し合いをしました。まず、手書きの塗り絵を児童クラブの子どもたちの人数分作り、配布しました。これまでは季節に応じてイベントを企画していましたが、子ども達と直接会うことが難しかったため、季節が感じられるような塗り絵を作りました。また、児童クラブに行けなくても、自宅で「おうち時間」を楽しんでもらいたいという思いもありました。今回塗り絵をお届けしたことで、児童クラブの先生方、子どもたちに喜んでいただきました。

今年は、例年と違う方法で児童クラブの皆さんと交流しましたが、プロジェクトメンバーがお互いの役割を理解し、行動することができました。誕生日会の開催が叶わなかったものの、子どもたちに笑顔になってもらうことに関しては実現できたのではないかと思います。

活動を振り返って、今後の展望

今年度は、「子どもたちを笑顔にする」という目標を達成することができました。しかし、例年まで実施していた、誕生日会が開催できなかったため、本当に子どもたちが楽しんでくれたかどうかわかりません。よって、来年度は、塗り絵発行だけでなく、季節に応じた贈り物の送付など、新しい活動も取り入れ、子どもたちとの多様な関わり方を考えていきたいです。また、プロジェクトメンバー同士で会う機会がなかったため、来年度は学生同士で交流を行いつつ、プロジェクト活動を進めていきたいです。



PROJECT 5

子ども食堂応援プロジェクト

美味しい食事と子どもたちの
心の支援を目指して

リーダー

文学部 人間関係学科 2年 宮川 実来
法学部 法律学科 2年 梶田 美来

プロジェクト人数

55名

活動開始時期

2016年9月～

活動頻度

月に3～6時間(一回の参加が3時間程度)、火、水、木、金曜日など(子ども食堂によって異なります)
《尾倉》第2・4水曜日 17:00～
《日明》第1～3木曜日 17:00～
《城野》第4水曜日 17:00～
《小倉中央》第3金曜日 17:00～
《大里南》第1・3水曜日 17:00～
《足立》第1・3火曜日 17:00～

連携・受入団体

日明元気もりもりハウス、子どもふれあい食堂あんず、城野子ども食堂ハッピー、足立ウチヤマ子ども食堂、絆キッチン、尾倉っ子ホーム、北九州市立大学生協食堂

主な活動場所

尾倉市民センター、日明市民センター、城野市民センター、小倉中央市民センター、大里南市民センター、足立市民センター



子ども食堂応援プロジェクトは、子どもたちの孤食を防ぎ、安心して過ごすことができる第3の居場所づくりを目的として設立され、市内6つの子ども食堂のサポートをしています。子どもたちと遊んだり、宿題の手伝いをするだけでなく、クリスマスやハロウィンなどイベントの企画や運営などを行っています。これらの活動を通して普段の大学生活では経験できない学びを得ることができます。

今年度の活動の内容と成果

春夏は子ども食堂の活動が中止・延期になったため、オンラインで学生ができることから始めました。まず、Twitterの発信です。Twitterは新1年生や地域の方々子ども食堂応援プロジェクトのことを知る大事なツールのひとつです。週2回のペースで活動内容や所属メンバーの声などを発信しました。Twitterで発信することで、フォロワーが徐々に増え、以前と比較して、多くの方から「いいね」をいただけるようになりました。

次に、子どもたちと実際に会うことができない期間の新しい取り組みとして、子ども食堂運営者側のご協力のもと、お手紙企画を始めました。お手紙企画では、子どもたちに向けた学生からのメッセージを写真付きの手紙のようなかたちにして、おもしろいクイズも掲載して作成しました。その結果、多くの子ども食堂にお便りを郵送し、遠隔でコミュニケーションを取ることができ、運営者の方たちや子どもたちに喜んでいただきました。

2020年11月からは、一緒に食事は取れませんでした、実際に子ども食堂の活動に学生が参加できるようになりました。12月にはクリスマス会を実施しました。お菓子やメッセージカードのプレゼントを渡すことができ、たくさん子どもたちを楽しんでもらえました。

活動を振り返って、今後の展望

コロナ禍で、今年度の活動はかなり制限されました。しかし、その中でも今できる活動を地道に行いました。活動を休止している子ども食堂もありましたが、今後の再開を目指して、学生もサポートしたいと思います。また、次年度には、かつて大学食堂で取り組んでいた「カレーforチルドレン」(学食でカレーを食べると子ども食堂に募金できる)の活動を再開し、より多くの大学生や地域の方々に「子ども食堂」の活動について知ってもらいたいと考えています。活動再開にとどまらず、他大学との連携協力や新規イベントの実施など、幅広く活動を行っていききたいと思います。



PROJECT

6

桜丘小学校学習支援プロジェクト

いっしょに学ぼう！教育現場で。

リーダー

文学部 比較文化学科 3年
高橋 想

プロジェクト人数

3名

活動開始時期

2017年4月～

活動頻度

月に9時間程度。
自分でスケジュール調整がで
きます。学生の授業スケジュールに
合わせて、平日都合の良い曜日・
時間帯に活動します。

連携・受入団体

北九州市立桜丘小学校、
北九州市立富野小学校

主な活動場所

北九州市立桜丘小学校、
北九州市立富野小学校



小倉北区にある桜丘小学校と富野小学校で、児童の学習支援を行っています。担任の先生と一緒に、通常行われている授業に参加し、「AT(アシスタント・ティーチャー)」として、子どもの学習理解をサポートする役割を担っています。その他の活動として、特別支援学級で生活支援を行ったり、小学生対象の「キャリア教育」と題し、将来の仕事や生活など、進路に関する特別授業を行っています。

今年度の活動の内容と成果

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、例年通りに活動できないことが多くありました。

前期は対面活動ができなかったため、毎年実施している「放課後教室」の活動についてわかりやすいマニュアルを作成し、新メンバーの募集を行いました。後期は活動再開が実現したため、感染防止対策をしながら、授業の参加と放課後教室の開催などを行いました。

コロナ禍という今まで経験したことがない世の中の状況で、とても不安そうにしている子どももいましたが、その中で私たちなりに子どもたちの安心に少しでもつながるような支援や助言ができるよう活動を継続しました。例年以上に子どもたちとどう関わるべきか考えなければならなかったため、学生メンバーや小学校の先生方との話し合いの機会が増え、その結果、現場に応じて充実した支援ができるようになりました。

活動を振り返って、今後の展望

正直なところ、コロナの影響で子どもたちと接する機会が減ってしまい、とても残念でした。次年度からは、子どもたちに様々な方法で学習支援が行えるよう頑張っていきたいと思います。例えば休校になった場合のオンラインによる教材の作成などです。しかし、学生メンバーが少ないので、今後はさらにメンバーを増やし、子どもたちと接する機会をもっと増やして、子どもたちや先生方の支えになるような活動を行いたいと思います。



2020年1月撮影

PROJECT

7

国際交流プロジェクト FIVA

地域住民と外国人の架け橋となる

リーダー

文学部 比較文化学科 2年
田中 美玖

プロジェクト人数

28名

活動開始時期

2016年4月～

活動頻度

2020年度に関しては、月に1回3時間程度でした。以前は、6時間程度行っていました。ミーティングは月に2回、計20分程度、オンラインで開催しました。以前は週に1回対面で30分程度行っていました。

連携・受入団体

北九州YMCA日本語学院、
北九州国際技術協力協会(KITA)

主な活動場所

北九州市立大学、北九州YMCA日本語学院、市内各所



私たちは、北九州YMCA日本語学院の留学生と日本語で、北九州国際技術協力協会(KITA)の外国人技術研修員さんと月に1回程度英語で交流し、地域とつながり合う交流活動の企画・運営を行っています。同じ北九州で暮らしながらも、接する機会の少ない日本の大学生・地域住民・外国人をつなげ、国際交流を通じて北九州をはじめ日本の魅力を発信しながら、多文化共生社会の実現に向けた課題改善に取り組んでいます。

今年度の活動の内容と成果

新型コロナウイルス感染症対策のため、例年通りの対面での交流が制限され、主にオンラインで交流を行いました。オンライン交流では、絵しりとリやジェスチャーゲームを行いました。11月からは、対面での交流が行えるようになったため、感染症対策を十分に行いながら、クラフトテーブルテニスとスポーツフェスタを行いました。今まで取り入れていなかったフリートークの時間を設けることで、留学生とさらに深く話をすることができました。

また、今年は、新たに学生団体総選挙やビジョナリーコンテスト、北九州SDGs未来都市アワードなどのコンテストに応募しました。その結果、学生団体総選挙で予選通過し、本戦に出場することができました。出場団体数約1800団体の中から100団体に残ることができ、他の学生団体の取り組みについて多く知ることができ、たくさんの学びを得ました。

今年度はKITA技術研修員の方との交流はできませんでしたが、研修員さん向けの冊子をリニューアルしました。

活動を振り返って、今後の展望

今後もオンラインでの活動の充実化を図り、安心安全に配慮しながら対面活動ができるような仕組みづくりを行い、質の高い国際交流を行いたいと考えています。また、外国の方と地域住民をつなげるという目標について、今年度はコロナウイルスの影響により、地域住民の方との交流が計画通りに実施できなかったため、オンラインやその他の方法で、地域の方に対しても気軽に、楽しく交流できるよう工夫していきたいと思います。



PROJECT 8

食べる国際貢献プロジェクト TFT

ランチから始めるおいしい国際貢献！

リーダー

外国語学部 中国学科 2年
川品 日向子

プロジェクト人数

6名

活動開始時期

2014年4月～

活動頻度

月に4時間程度、毎週月曜日
他大学との交流会・勉強会など、
ミーティング以外にも週に1～2
時間程度活動を実施しています。
また、メンバーの都合の良い曜日の
昼休みにミーティングを実施
しています。

連携・受入団体

北九州市立大学生活協同組合

主な活動場所

北九州市立大学
北方キャンパス 食堂など



2019年撮影

世界では全人口約70億人のうち、20億人が肥満に悩む一方で、10億人は飢餓に苦しんでいます。この食の不均衡を改善するために、私たちは学食でTABLE FOR TWO(以下、TFT)メニューを販売し、1食につき、売上の20円を途上国の子どもたちに対して、給食1食分の寄付金として届ける活動を行っています。生協食堂のご協力のもと、TFTフェアの開催やその広報活動を主に行っています。

今年度の活動の内容と成果

今年度は、オンラインだからこそできることを考え、主に3つの活動に力を注ぎました。

まずは勉強会です。環境問題、食糧難、フードロスの3つのテーマについて、それらの解決方法や支援方法を調査し、その調査結果を勉強会という形でZoomを用いて、プロジェクト全体で共有しました。TFTのみでなく、食に関するさまざまな国際問題について情報を得て、知識を身につけることができました。

次にオンライン交流会です。TFTに取り組む他大学の活動についてSNSを通して調査し、アポイントメントをとり、Zoomを使用したオンライン交流会を行いました。第1回目は山口県立大学、第2回目は東京農業大学と交流会を開催しました。これまで関わることのなかった遠方の大学との交流は新鮮で、同じTFTの活動でも、大学によって内容が異なり、TFTでいろんな活動ができる可能性を見出せた良い機会となりました。

最後に、SNSの積極的な運営です。Instagramを新たに開設し、Twitterの投稿に加え、Instagramの特性を活かして私たちのこれまでの活動や勉強会、他大学との交流会について発信しました。また、おにぎりアクションの活動にも参加しました。新たな取り組みを通して、来年度の活動発展のための知識や経験を得ることができました。

活動を振り返って、今後の展望

今年度は、私たちの主な活動である大学食堂でのTFTフェアが開催できませんでした。今後は状況をみながら、生協の担当者とコンタクトをとり、季節ごとにフェアを開催したいと考えています。また、食糧問題の調査・勉強会や他大学との交流会は、引き続き継続して取り組みたいと思います。TwitterとInstagramの特徴を活かしながらSNSを有効利用し、フォロワーを増やし、1人でも多くの人に世界の食の現状やTFTについて知っていただけるように、これからも精力的に活動していきます。



2019年撮影

PROJECT 9

『食』から学ぼうプロジェクト

食と健康の大切さを楽しく発信

リーダー

地域創生学群 地域創生学類 2年
大楠 千晶

プロジェクト人数

15名

活動開始時期

2016年4月～

活動頻度

・月1回程度で企画やイベントの実施
・毎週1回昼休みにミーティングの実施

連携・受入団体

広徳小学校、
足原ピッコロ子ども食堂

主な活動場所

市民センター、各自宅のキッチン



子ども食堂での調理の様子(2019年6月撮影)

私たちは、地域社会とのつながりを大切に、食と健康について自発的に学習を行い、その学習成果を子どもたちや同世代の学生に伝えています。主に子ども食堂における昼食献立作りと調理、子どもたちのお世話、地域の小学校における食・健康・環境学習支援、学内外における調理実習・食習慣改善教室に参加しています。その他にも飲酒運転を防止するための飲酒疑似体験イベントの企画運営、お弁当作りの推進を行っています。

今年度の活動の内容と成果

まず、北九州市立大学法学部政策科学科 三宅博之先生のゼミとの連携事業として、コロナ禍でアルバイトができず、食べ物に困っている大学生に対してフードバンクから提供いただいた「まだ食べられるが廃棄される食材」を配布する活動「フードパントリー」に協力しました。当日はトマトが支給されたのですが、イベントではトマト料理を複数紹介しました。参加者からトマトを使った調理の様子や料理の写真を提供いただき、『食』から学ぼうプロジェクトのSNSで食ロス問題の学習や自炊の啓発活動に使用しました。

次に、2020年12月、来年度春実施予定の足原ピッコロ子ども食堂での調理準備として、守恒市民センターの調理室をお借りし、調理実習を行いました。実習では野菜コーンシチュー、ケチャップライス、ミニハンバーグ、ティラミスを作りました。

最後に、インスタグラムでの情報発信です。今年度は、計16テーマについて投稿しました。『食』から学ぼうプロジェクトの認知度アップと、食ロス問題について学習と自炊推進を目的に取り組んでいます。

活動を振り返って、今後の展望

今年度は、広徳小学校で実施している食育イベント「食べ物ランド・健康ランド」、足原市民センターでの「あしはらピッコロ子ども食堂」の活動に取り組むことができませんでしたが、コロナ感染防止対策を行い、可能な範囲で活動を再開していきたいです。また、動画作成やポスター作りなど自宅でもできる活動を取り入れて活動に励みます。オンラインで学生同士で定期的にコミュニケーションを取ることを大切にし、状況に応じて、活動内容や頻度を調整してプロジェクトの活性化を図りたいです。



広徳小学校で食育活動(2019年11月撮影)

PROJECT 10

地域クリーンアッププロジェクト

参加者みんなで楽しくゴミ拾い！

リーダー
法学部 政策学科 2年 伊礼門 叶
プロジェクト人数
20名
活動開始時期
2015年4月～
活動頻度
月に5時間程度、毎週金曜日。 1年を通して参加自由型で活動しています。
連携・受入団体
北方市民センター
主な活動場所
北方校区



2019年撮影

私たちは地域の環境をより良くするため、毎週金曜日に北九州市立大学周辺でゴミ拾いをしています。参加者みんなで楽しく活動することによって、街の美化を図るとともに、活動を見た人がポイ捨てをしてはいけないと思っていただけるよう心がけています。また、地域の環境美化に力を入れている企業様とのコラボ清掃、モノレール駅周辺の清掃活動も始めました。

今年度の活動の内容と成果

地域クリーンアッププロジェクトでは、予定さえ空いていれば気軽に清掃活動に参加できます。ゴミ拾いを楽しみながらやっており、メンバー内の雰囲気はいつも和気あいあいとしています。他学部・学群の学生だけでなく、卒業生や社会人の方々も参加されます。ですので、幅広い年齢層の方と交流できるのが活動の魅力のひとつです。大学入学時からプロジェクト活動を始めると、先輩からサークルや授業についてアドバイスをいただいたり、慣れない大学生活の中いろいろとお話を伺うことができます。

忙しい学生でも自分のスケジュールに合わせて参加可能です。興味のある学生、そして地域の方にも、ぜひお声掛けいただき、ご参加ください。

活動を振り返って、今後の展望

例年通りの清掃活動が難しい1年でした。そのため、基本的にSNSで広報活動を行いました。SNSではゴミ問題をはじめとする環境問題に関する記事を作成、学生メンバーが各自回収したゴミの写真とともに掲載し、閲覧者に対して少しでもゴミ問題に興味を持っていただけるように工夫してきました。

新型コロナウイルス感染症の影響が収まってきた時期には、月に1回程度、北九州市立大学周辺のゴミ拾い活動を再開しました。また、コロナ感染対策に十分に配慮した上で、JT北九州支店や地域住民、他の学生ボランティア団体と合同で清掃活動を実施することができました。



2019年撮影

PROJECT 11

青空学プロジェクト

みて、ふれて、感じる「北九州」。
学生だから出来ること。

リーダー
地域創生学群 地域創生学類 2年 藤本 初音
プロジェクト人数
6名
活動開始時期
2016年2月～
活動頻度
定例活動としては、ミーティングを週に1回実施。その他必要に応じて活動を行っています。
連携・受入団体
NPO法人 里山を考える会
主な活動場所
東田エコクラブ、北九州市立大学



私たちは北九州市の環境問題に対して、学生ならではの視点から実践的アプローチをとり、問題解決を行うプロジェクトです。当初は「北九州市公害克服の奇跡の風化防止」を目的に設立されたプロジェクトです。現在は、北九州市で取り組まれている「SDGs」(Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標))の中から課題を選び、学生が出来る活動を企画・実践しています。

今年度の活動の内容と成果

はじめは海洋漂着ゴミ問題の解決に取り組むため、「海ゴミ収集に行くぞ!」と意気込んでいたのですが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、予定通りに実施できませんでした。しかし、今振り返るとできることを実践し続けた1年でした。まず、私たちは「海洋漂着ゴミ問題に関する知識に乏しいことが課題である」と考え、オンラインでできる知識習得の場として、海洋漂着ゴミ問題に関連する文献を読み、映画を視聴し、議論するダイアログに参加しました。次に、9月に海ゴミ収集を実施しましたが、「学生の単なる体験では終わらせたくない」という強い思いがありました。そこで、集めたゴミを使って芸術作品を作り、「ゴミを収集し、資源として生まれ変わらせるまで」の一連の流れをドキュメンタリーのようなかたちで動画にし、西日本最大級の環境イベントである「エコライフステージ」(今年度はオンライン開催)で発信しました。今回は、視聴者の方の感想等を直接聞けなかったためはっきりとしたことは言えませんが、私たちの動画が海洋汚染の実態や海洋漂着ゴミ問題について何らかの気づきや興味、関心を得たり、小さなことでも何か行動を起こすきっかけになったら嬉しいです。

活動を振り返って、今後の展望

新型コロナウイルス感染症の影響で、「自宅出来る」活動が多かったです。来年はもっと地域に出て、実際に私たちの目でみて、ふれて、感じて「リアルな北九州市の環境問題」を知り、学んでいきたいと考えています。次年度のテーマ(環境問題)は未定ですが、これからも北九州市の抱える環境問題に対して、学生ならではの視点・感性でアプローチしていきたいと思います。



PROJECT 12

「ブンガクの街北九州」発信プロジェクト

日常に文学を

リーダー

文学部 比較文化学科 2年
大熊 日菜子

プロジェクト人数

10名

活動開始時期

2015年11月～

活動頻度

ミーティング:週に1度、1コマ
(受け入れ先とのミーティングは
月2回程度)
イベント:2カ月に1回程度

連携・受入団体

北九州市役所、京町銀天街

主な活動場所

学内(ミーティングやイベント事
前準備)、
北九州文学サロン、京町銀天街
(イベント準備および当日)



森鷗外や松本清張など、北九州市にゆかりのある作家は多くいます。しかし、そうしたことを知らない若者の多くは、北九州市の文学的側面に注目する機会がほとんどありません。よって、私たちのプロジェクトでは、若者の「文学って古い、固い、難しい」といったイメージを変え、「文学」を新たな北九州市のブランドとしていくためさまざまな活動を行っています。

今年度の活動の内容と成果

今年度の活動スタート時は、対面ではなく遠隔の活動のみとなり、今までとまったく違ったかたちでの活動が求められました。その中で、私たちは定期的にミーティングを行い、お互いにオンライン上で顔を合わせて、いま何ができるのか考えてきました。前期の活動では、SNSを使ってできる活動として、文学に関する情報発信(プロジェクトメンバーのおすすめ本の紹介など)を行いました。少しずつ学外での対面活動が可能になってからは、毎年京町銀天街で開催される古本市に参加し、多くの方に対面で文学の魅力を発信することができました。また、ご協力いただいている京町銀天街様より、「小倉ブックフェス」のブックカバー企画のご提案を受けました。私たちが作成したブックカバーが、たくさんの人の手に届く素敵な機会となりました。4、5月は「どのようにプロジェクトを進めていくのか」が定まらず、悔しい日々が続いていました。しかし、悩む時間を経て、学生メンバー間でコミュニケーションが増え、私たちの絆が深まったように感じます。また、ミーティングではメンバー1人1人のやりたいことをリストアップしました。ここで1年の計画を具体的に立てることができたのも大きな財産です。これらの活動実績をもとに、来年度は企画を実行できる1年にしたいです。

活動を振り返って、今後の展望

SNSを使用した文学に関する情報発信は特に積極的に行ってきましたが、今後も頑張っていきたい活動のひとつです。今後は、今年度実現できなかったオンライン上でのイベントの企画・運営を実現したいと考えています。私たちの活動は、商店街の方や若者(子どもたちや大学生)を主な対象としています。来年度、どのようなかたちで対象者と関わっていくか現在まだ企画中ですが、プロジェクトメンバーが今できることを常に考え、実行に移す1年にしたいです。



PROJECT 13

いぬねこプロジェクト

わんちゃん、ねこちゃんは我らが守る。

リーダー

地域創生学群 地域創生学類 2年
村上 めい

プロジェクト人数

8名

活動開始時期

2015年11月～

活動頻度

ミーティング:
毎週月曜昼休み(12:15～12:45)
セラピー犬のお世話:
月3回程度(月曜日・火曜日)
愛護センター訪問:
月3回(水曜日)

連携・受入団体

北九州市役所、ドッグセラピー
ジャパン、NPO法人門司港レトロ
犬猫を守る会

主な活動場所

ドックカフェkatanoda、
北九州愛護センター、門司港



私たちは北九州市が掲げる「犬猫殺処分ゼロ」を第一目標として活動しています。また、人と犬猫がより良く関わり合える環境づくりを目指し、譲渡会、北九州市の関連イベント参加、セラピー犬のお世話などを行っています。また私たちは広報活動のほか、人、犬、猫とのより良いかかわりを目指した啓発活動を実施しています。

今年度の活動の内容と成果

今年は、いぬねこプロジェクトにとってリスタートの年でもありました。犬猫もっとと触れ合いたい、北九州市の現状に沿った活動をもっと行っていきたいという意見や考えがあり、様々な活動を実施しました。

まず、北九州市役所のサポートのもと、「第7回北九州市人と動物の共生社会推進懇話会」に参加し、愛護センターの訪問を通して、北九州市の保護犬、保護猫の現状について学びました。

次に、2019年度からはドッグセラピージャパンさんと連携し、老人ホームでのセラピー活動や犬と触れ合える子ども食堂の開催のサポートをしてきましたが、今年度はドッグカフェ katanodaでセラピー犬のお世話をしました。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、実施したい活動が思うようにできませんでしたが、学生メンバーのモチベーションを高めるため、Tシャツやオーバーオールを製作しました。

SNSでの広報活動を再開し、プロジェクト活動の様子を投稿したり、犬猫に関する情報を発信しています。犬猫に興味・関心はあるが、実際に活動できるかどうか不安という方に対して体験活動も可能にしました。今年度は合計12名の学生と活動することができました。

活動を振り返って、今後の展望

今後はより多くの活動を実施し、犬猫の命の大切さを啓発していきたいと考えています。活動予定としては、北九州市で行われるイベントへの参加をはじめ、新しくオープンするドックカフェの支援、子犬のお世話などを計画しています。たくさんの学生に本プロジェクトの活動について興味を抱いていただき、一緒に活動してくれるメンバーを増やしたいと考えています。そして、北九州市の「犬猫の殺処分ゼロ」に貢献したいと思います。



PROJECT 14

平和の駅運動プロジェクト

太鼓で“核なき世界を”
長崎街道を平和ロードに！

リーダー
地域創生学群 地域創生学類 2年 田中 小晴
プロジェクト人数
6名
活動開始時期
2011年4月～
活動頻度
月に2～10時間程度、 毎週金曜日など
連携・受入団体
顧問：中島俊介 名誉教授 北九州市立徳力小学校、北九州市 立西小倉小学校
主な活動場所
北九州市、長崎市、鳥栖市



「北九州市小倉が原爆投下の第一目標だった」という歴史的事実を重く受け止め、「北九州市の学生だからこそできること」をモットーに、北九州市小倉に根付く伝統芸能“小倉祇園太鼓”を用いて、音楽と若さの力で平和を訴える文化的平和活動を行っています。夏には、自転車で小倉から長崎までの自転車リレーをしながら、広島原爆の残り火を運ぶ活動を行っています。

今年度の活動の内容と成果

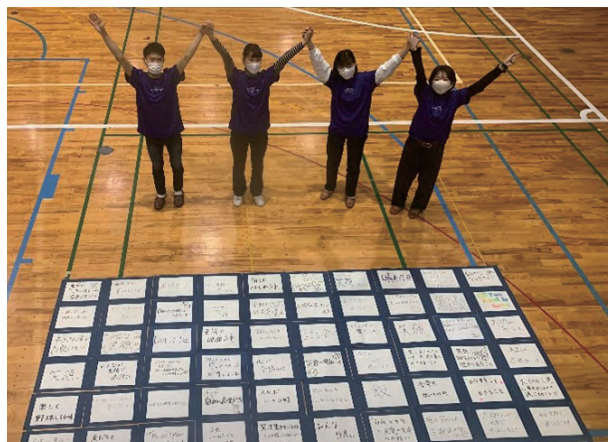
今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によって、今までのように対面で活動を行うことができませんでした。そのため、SNS上で、私たちの活動目的である「平和の再考」をより多くの人に考えていただき、伝えていくために、ピース(平和)動画を作成しました。これは、100人の方に「あなたにとって平和とは」という問いに対する答え、メッセージを書いていただき、動画撮影に協力していただくというものです。この動画を12月8日(真珠湾攻撃の日)にYouTube等で一般公開しました。

この取り組みの成果は2つあります。1つ目は、オンラインの特長を活かして色々な方へ平和について伝えることができたことです。これまではイベント開催を通して平和の尊さを発信してきましたが、今回はウェブ発信の強みを活かし、より多くの人に私たちの思いを届けることができました。2つ目は、協力者が増えたことです。これまでの活動にご協力いただいた方々はもちろん、大学のサークルや地域共生教育センターの他の学生団体と新たに協力関係が生まれ、活動の幅を広げることができました。このように、今年はコロナ禍であっても、私たちができる最大限の活動が実現できたと確信しています。

活動を振り返って、今後の展望

「より多くの人に平和について考えていただくにはどうすればよいのか」コロナ禍で平和の伝え方について模索してきました。例年とは全く異なるかたちでの活動になりましたが、新たな手段を駆使した結果、団体として学ぶことがとても多かったです。

今後も自転車リレーのようなイベント開催やオンラインでの活動などを通して、平和の尊さを訴え続けていきたいです。



PROJECT 15

まち美化魅力向上プロジェクト Clear

「Clear」な活動でまちの魅力UP

リーダー
法学部 政策科学科 2年 伊東 龍生
プロジェクト人数
8名
活動開始時期
2020年4月～ (2017年6月～2020年3月まで「三萩野バス停モラル・マナーアッププロジェクト Clear」として活動)
活動頻度
毎週金曜日など 月に10時間程度 (第3日曜日に活動がある場合もある)
連携・受入団体
株式会社ミクニ
主な活動場所
三萩野バス停周辺、その他学生が 清掃活動したいエリア



本プロジェクトは、ゴミ清掃を通して北九州市内の環境課題を解決し、市の魅力を向上させることを主な目的に活動しています。2020年3月までは特に三萩野バス停周辺で集中的に清掃活動をしていたため、このエリアの清掃を現在でも行っています。また、北九州市に本社を持ち、不動産業を行っている株式会社ミクニさんと連携し、新たに活動をスタートしました。

今年度の活動の内容と成果

今年度の活動は、新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインでの活動が中心となりました。はじめは戸惑いましたが、ミーティングを毎週行い、一緒にプロジェクトの活動してくれるメンバーに広報するためオンラインの勧誘活動やSNSを開通してやりとりするなど活動制限のある中でできるだけ活動を行いました。

年度後半は課外活動の許可が下り、三萩野バス停での定例清掃を中心に活動を再開しました。特定のエリアを決めて活動することはできませんでしたが、コロナウイルス感染拡大の影響で活動できなかったことは悪いことばかりではなく、長期間活動ができなかったからこそ、改めてこれまでの活動をふりかえることができました。昨年度と比較すると、実際の活動時間は短いですが、活動の制限があるなかでも様々なことに取り組んだことで今後につながる新しいチャレンジができました。これが一番の成果だったと思います。

活動を振り返って、今後の展望

コロナ禍でオンライン活動を経験できたことは、今後、効率的に活動をおこなう上で役に立つと思います。

ただ、今年は受け入れ先であるミクニさんとの合同の活動時間が少なかったため、今後は意見交換の機会を設け、お互いにメリットとなるような活動を行いたいです。

また、北九州市内で他のエリアでの活動をしたかったのですが実現できていないので、今後本格的に行いたいと思っています。



PROJECT 16

若園保育所「英語で遊ぼう」

英語を楽しんで学んで、
身近に感じるために

リーダー

地域創生学群 地域創生学類 2年
友納 菜里奈

プロジェクト人数

6名

活動開始時期

2016年4月～

活動頻度

不定期

連携・受入団体

北九州市福祉事業団 若園保育所

主な活動場所

若園保育所



遊びながら、身体を動かしながら、英語教育や異文化理解教育をおこなうプロジェクトです。学生が主体となってイベントの企画を行っていますが、園児はいつも楽しみに笑顔で参加してくれます。年間行事に合わせながら、英語で絵本の読み聞かせをしたり、歌を歌ったり、ゲームをするなど活動内容を工夫しつつ、子どもたちを楽しんでもらえるよう心掛けています。園児のみなさんとの交流を通じて幼児教育について深く学ぶことができます。

今年度の活動の内容と成果

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で現場での活動が中止となり、若園保育所の先生方や子どもたちと会うことができず悔しい1年となりました。本来は、園児の皆さんが英語や異文化学習を楽しんでいる様子を目の前で感じることで、成長していく姿を見守ることができます。しかし、今年度は従来の活動が実施できなかったため、自分たちができることは何か、真剣に考えました。そして、2学期に入り、園長先生とミーティングを行いました。ミーティングでは 園児との接触は避け、密にならないようにすべきだのご助言をいただきましたが、新型コロナウイルス感染者数の増加によって活動が難しくなった時期もありました。そのときはポストカードを作成し、子どもたちに贈ることを提案しました。12月はクリスマスの時期です。私たちは手書きのクリスマスカードを作成しました。これまでの活動では季節やイベントに合わせて英語について学習機会を提供してきたため、活動の軸がぶれないように気を付けました。結局のところ対面での活動は実現しませんでした。手作りのカードを送ることで、子どもたちが少しでも英語や異文化に親しみを持ってもらえるよう活動に取り組みました。

活動を振り返って、今後の展望

今年度は、新型コロナウイルス感染予防の観点から1学期の間は活動はせず、2学期も従来のような対面活動を行うことはしませんでした。

来年度は、感染症対策と対面活動の両立を目指し、保育所でもより多く活動を行いたいと考えています。保育所の子どもたちに直接会えないからこそ、私たちができることを探し、英語や異文化にたくさん触れ合う機会を作っていくことを目標にしたいと思います。



PROJECT 17

JOB×Project

企業選定から当日運営まで全てを
北九大生で行う合同セミナー！！



JOB×Projectでは、業界研究を行う学内合同業界研究セミナー「JOB×Lab.2022」（11月～12月水曜日、全4回）、及び学内合同企業研究会「JOB×HUNTER2022」（2月に全4回）の企画・運営を行います。企業・団体の誘致を行う「営業」の仕事を全員で行い、各種イベントの企画を行う「イベント班」、学生への広報活動とwebパンフレット作成を行う「プロモーション班」、会場設営や当日の運営を行う「オペレーション班」の3班で活動しています。企業・団体様と接することで、自らの将来を描き成長できるプロジェクトです。

PROJECT 18

施設での学習支援

様々な事情を抱えている子ども達の学習支援



家庭や社会において様々な事情を抱えている子どもたち。そんな小中学生の子どもたちに対して学習支援を行っています。活動内容は、宿題の予習・復習の支援や学校の授業で分からない箇所の指導をしています。単に勉強を教えるだけでなく、何気ない会話を大切にし、温かく見守ってくれる、大人でもない友達でもない「大学生」である特権を活かして関係づくりを行うなど、とてもやりがいのある活動です。

黒崎駅周辺清掃



421Lab.の学生プロジェクトのひとつ「まち美化魅力向上プロジェクト Clear」の前身プロジェクトである「三萩野バス停モラル・マナーアップPJ Clear」は、三萩野バス停を中心に清掃活動を行ってきました。今年度は活動範囲の拡大を検討していたところ、市内でごみ清掃ボランティアを行っている黒崎地区美化推進協議会から合同ごみ清掃イベントへの招待がありました。北九州市の第2の都心であり交通の中心でもある黒崎駅周辺の清掃を行うことによって、駅周辺地域のイメージアップを図り、住民のマナーアップにつなげることが目的です。

当日は風が強く、晴天とはいえない天候でしたが、大勢の方が参加していました。見晴らしの良い広い道にはゴミは落ちておらず、綺麗に見えましたが、側溝の中や屋外階段の下など目の届きにくいところにはタバコの吸い殻や空き缶、ゴミのいった袋などが捨てられていました。「まち美化魅力向上プロジェクト Clear」が普段清掃活動を行っている三萩野バス停も、ベンチの下やバス停の裏など人目が届きにくいところにゴミが多く捨てられています。今回の経験をもとに、清掃活動を通じて三萩野バス停だけでなく北九州全体をより明るく、魅力あふれるまちにしていきたいと思っています。



参加した学生の声

黒崎駅周辺清掃は、地域の方や高校生など思っていたよりも多くの方が参加されており、とても賑わいのある清掃でした。清掃ルートは決まっておらず、それぞれに散らばって清掃を行いました。

私たちが拾ったゴミはゴミ収集車で回収されました。清掃終了後は、ウォータースタンド株式会社さんから、参加者全員にタンブラーのプレゼントがありました。ウォーターサーバーも設置して下さっていたため、その場で頂いたタンブラーを使って水を飲むことができました。ゴミ拾いだけではなくペットボトルの使用を少しでも減らすためにタンブラーの利用を進めるという、環境に配慮した取り組みが行われました。今回の清掃を通して学んだことはたくさんありますので、今後のプロジェクト活動に活かしていきたいと思っています。

(法学部政策科学科 3年 那須 晴花)



クラフト卓球で留学生と国際交流



国際交流プロジェクト FIVAは、北九州の留学生や外国人研修生と地域をつなげるための交流活動の企画・運営や、国際交流を通じて北九州や日本の魅力を発信しているほか、多文化共生社会の実現に向けた課題改善に取り組んでいます。

今回の活動では、新型コロナウイルス感染対策を取りつつ、北九州YMCA日本語学院の国際交流センター 2階ホールにて、留学生の皆さんと一緒にクラフトテーブルテニスとフリートークを行いました。

まず紙皿と割り箸でオリジナルのラケット(クラフト)を作成し、クラフトテーブルテニスを始めました。グループに分かれて制限時間内に最大何回のラリーができるかを競いましたが、なかなかラリーが続かなくて苦戦しました。それでも楽しく競技でき、とても盛り上がりました。

クラフトテーブルテニスの次はグループを変更してフリートークの時間をとりました。積極的に会話を交わし、久々の対面コミュニケーションを楽しみました。



参加した学生の声

コロナウイルス感染予防のため、オンライン交流が続いていたところ、留学生のみなさんから「実際に会って話したい!」という声が続いていました。そこで、北九州YMCAの教職員のみなさんのご協力のもとコロナ感染対策を取って、学外で安全に活動ができるように準備を進め、2020年秋、ついに対面交流が実現しました。

まず紙皿と割り箸でオリジナルのラケットをつくり、クラフト卓球に挑戦。グループごとにラリー数を競うのですが、なかなかラリーが続きませんでした。ですが、みんなとても盛り上がりしていました。後半はフリートークタイムで、顔を合わせた久しぶりの会話ができてうれしかったです。

今回の活動を終えて、参加した北九大生、留学生ともにさらに絆を深めることができました。留学生のみなさんからは「北九大生と遊んだり、話ができ楽しかった!」という感想が寄せられました。次回もみんな楽しく過ごせる国際交流にしたいなと思います。

(文学部比較文化学科 2年 若林 葵)





北九州市立大学では、春になると新入生を対象に様々なオリエンテーションが行われています。私たち地域共生教育センター（以下、421Lab.と略します）も毎年、421Lab.学生運営スタッフが説明会を実施し、広報誌を配布したり、新入生の質問に答えたりしてきました。

421Lab.の説明会は学生プロジェクトの参加者を増やす貴重な機会です。しかし、2020年度前期は新型コロナウイルスの影響を受け、学生の入校が制限されました。ボランティアを含む学外活動も規制されたため、思うように421Lab.の周知、案内ができず、新入生と接する機会が極端に少なくなっていました。



後期になると、入校制限が緩和され、新入生も対面で授業に参加できるようになりました。今回はこの対面授業の冒頭にお時間をいただき、421Lab.の活動紹介をしました。またチラシには、421Lab.の活動に興味をもった人、質問がある人がSNSで先輩に気軽に相談できるよう専用のQRコードを貼り付けるなど工夫をしました。

例年に比べ随分遅くなったスタートダッシュとなりましたが、421Lab.の知名度アップ、新入生勧誘に少しでも貢献できたのではないのでしょうか。



参加した学生たちの声

421Lab.学生運営スタッフの活動として出張ラボに参加しました。他学部の多くの学生の前に立つのが初めてだったのでとても緊張してしまい、パワーポイントの操作を少し間違えてしまいました。先輩は学生にやさしく話しかけたり、ゆっくりと大きな声で発表していたので、内容も理解しやすかったです。今回の活動を通じて、私自身が

まだ421Lab.のプロジェクト内容をきちんと理解できていないことも分かりました。今回はパソコンの操作を担当しましたが、先輩を見習って次回こそ学生の前で発表したいと思います。もし失敗したらその原因を把握して、もっと上手に421Lab.の魅力が伝えられるように練習したいと思います。最後になりましたが、出張ラボにご協力いただきました先生方に感謝いたします。

（地域創生学群地域創生学類 1年 大友 天）

参加した学生たちの声

出張ラボは421Lab.の活動に参加する学生を増やすのが目的です。少しでも印象に残る説明会にしたいだったので、オリジナルパーカーを着て教室に入りました。このとき421Lab.の学生メンバーであるという実感が湧きました。教壇に立つと、まだ私が知らない学生が多いこともわかり、とても緊張しました。はじめは私のパーカー姿を見てほとんどの学生が不思議そうな顔をしていましたが、421Lab.の紹介を始めるとみんな私たちの声に耳を傾けているのがよくわかりました。421Lab.について質問してみたところ、「名前は聞いたことがあるよ」という人がたくさんいました。短い時間のなかで私自身の421Lab.の活動に参加したきっかけや実体験、そして変化について伝えることができたと思います。今回の活動を通じて少しでも421Lab.に興味を持ち、一緒に活動する学生が増えたらうれしいです。

（法学部政策科学科 1年 山越 悠聖）

地域×学生

421Lab.

新メンバー募集中！一緒に地域活動しませんか？

いよいよ第2弾がはじまり、少しずつですが対面授業も開始されましたね！
今からでも遅くはありません。これからの大学生活を充実したものにしませんか？

大学生活には、勉強、サークル、アルバイトなどたくさんあると思いますが、もうひとつ、大学生のうちに経験できる魅力ある活動に「ボランティア」があります！
ボランティアでは、大学生が活動することで地域が豊かになるだけでなく、学生自身も様々な出会いや貴重な経験が得られます。

421Lab.は、北九州市立大学のボランティア活動を応援しています。
今までにボランティアに参加したことのある人も、大学から始めてみたいと思っている人も、ぜひ421Lab.と一緒に活動しましょう！

421Lab.とは？
どんな活動ができるの？

→くわしくは、FULL（このチラシと一緒に配布された冊子）や各QRコードをチェック！

1冊100円
（地域共生教育センターで無料）

1冊100円
（先輩に送ってもらう）

421Lab.の活動（活動紹介）が
見られます！

★こんな人にオススメです！そしてこんな人に向いています！

- 新しいレベルの仕事を求めている人
- 勉強、サークル、アルバイトだけではなく、+αの活動がしたい
- 新しいことに挑戦したい
- 新しいキャンパスライフを送りたい
- 他学部の友達を増やしたい

★421Lab.の活動を通して得られる学びと能力

知識

思考・判断力

表現力

対人力

行動力

※募集は順次受け付けておりますが、
第一次募集締め切りは10月30日（金）とさせていただきます。

ミライキッズ九州



昔に比べ生活は豊かで便利になり、子どもたちの体格も向上していますが、それに反比例するように、子どもたちの体力や身体能力は年々低下しています。「ミライキッズ」は、子どもたちの健康を保ち、病気や怪我に負けない体力をつくるために発足した、全国的に展開されているプロジェクトです。

今回421Lab.学生運営スタッフが「ミライキッズ九州実行委員会」主催の「子ども体力測定」というイベントのボランティアに参加しました。このイベントは、子どもたちの体力の現状を把握することで、体力向上につなげるための足掛かりとするものです。2020年は、新型コロナウイルスの影響で長い間学外でのボランティア活動ができない状況だったため、「ミライキッズ」は今年初め大きなイベントへの参加となりました。感染対策として、参加する子どもとボランティアの人数を制限し、器具は使用ごとに消毒、測定時は距離を十分にとるなどの対策を行いました。子どもたちとのふれ合いはもちろんですが、ボランティアに参加した学生たちも同級生や先輩たちと一緒に活動することができ、とても実りの多い一日でした。



参加した学生たちの声

私は普段教育に関わる学生プロジェクトに参加しているので、現場スタッフの方が子どもたちにどのように接しているかを学ぶよう心がけながら活動しました。

このとき、新型コロナウイルスの影響でボランティア活動ができず、学外の方だけではなく北九州市立大学の学生とも関わる機会が激減していました。特に1年生とはオンラインや対面の授業で顔を合わせることはありましたが、ほとんどの学生とは一度も対面で話をしたことがありませんでした。

1年生の皆さんは慣れないボランティア活動に緊張している様子でしたが、休憩時には全力で体力測定にチャレンジしたり、踊り出したりと、とてもリラックスして活動を楽しんでいました。

今後も機会があればまた参加したいと思います。

(地域創生学群地域創生学類 3年 前原 詩織)



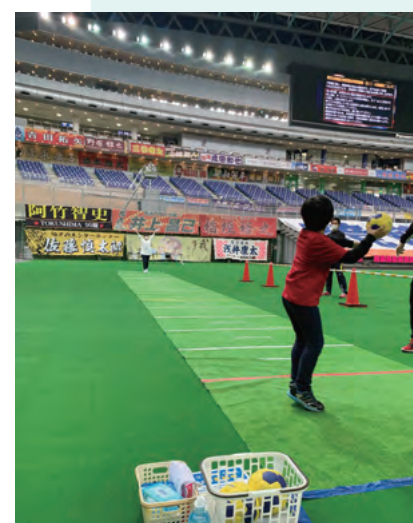
参加した学生たちの声

ミライキッズのイベントは、コロナ感染予防のため、一度に測定できる子どもの人数を制限していました。そのため、時間的にも気持ち的にも余裕をもってボランティア活動に参加でき、先輩方や同級生とも仲良くなれました。

私は前半に未就学児の、後半に小学生のボール投げのお手伝いをしました。子どもたちはみんな素直で、褒められるとやる気を出して記録をぐんぐん伸ばしていました。

私は子どもたちと接するプロジェクトに所属しているので、今回学んだことをプロジェクト活動にも活かしたいです。

(地域創生学群地域創生学類 1年 山下 陽菜)



20歳の意志

2500人が死傷した八幡大空襲があった1945年8月8日。その日の出来事をつづった1編の詩がある。

「雨は上がって八月の八日の空の爽やかさ」で始まり「空に銀翼（爆撃機や戦闘機）三に「北九州でしかできない活動をしように」と、「天下太平」を願う小倉祇園太鼓の演奏を中心に活動する学生団体に入会。空襲体験の記録に取り組み市民グループ「聞き書きボランティア『平野塾』」と団体が2016年から毎年8月8日に開催してきた平和音楽祭にも参加し、20年度は団体の会長を務めている。

ところが今春以降の新型コロナウイルス感染拡大で、大学の学生活動は中止された。神谷さんの団体も音楽祭の開催ができなくなったが、市民



八幡大空襲から75年

「死」と向き合い朗読

平和への思い伝える



市民グループの会合に出席した神谷さん。参加者の慰霊祭開催への情熱に心動かされたという

グループは新たに慰霊祭の開催を決めた。小学校から沖縄戦の体験談に接してきた神谷さんは、グループが慰霊祭に

してきた「八幡大空襲の日」を担当することになった。神谷さんは7月下旬、詩を作ったに電話を入れ、文面だけでは読み取れない当時の状況を尋ねた。

「光るレールの電車焼け」「燃える電柱 沸く水槽」

空襲から半世紀余り後に生まれた神谷さんには、電車や電柱が燃えやすい木製だったとは想像できなかった。防火水槽の水が中に入った焼夷弾の熱で沸騰したことも

から説明を受けて納得した。大やけどで皮膚がむけ、体から血管が浮き出た遺体の様子も聞き、当時の生活や実感ができなかった数多くの「死」が、心の中で現実味を帯びた。

は当初、詩の読み方も指導するつもりだったが、話が進むにつれ「何も言わなくても私の体験を引き継いでもらえる」と感じ、そのまま電話を切った。神谷さんは8日の慰霊祭で、炎に包まれた街をひた走った少年になりきり、75年前の「戦禍」を今に伝える。

（この連載は奥田伸一が担当しました）

100人が訴える平和動画に



福岡ひびき信用金庫城野支店セミナールームで、画用紙100枚で作成されつつある巨大画。3人は北九州市立大の学生2人と同支店の竹内渉支店長（左）

巨大画に北九州市民らメッセージ

市立大生制作12月公開

太平洋戦争で長崎に投下された原爆の当初の目標が小倉だったことを若い世代などに広め、平和の大切さについて思いを巡らせてもらおうと活動する北九州市立大学の学生グループ「平和の駅運動プロジェクト」が平和をテーマとした動画の制作に乗り出している。北九州市民ら100人から寄せってもらった平和に関するメッセージを紹介する内容に仕上げ、太平洋戦争開戦の日の12月8日、動画投稿サイト「ユーチューブ」などで公開する計画だ。（西山忠宏）

米軍は当初、2発目の原爆を旧小倉市の陸軍造兵廠（現小倉北区）に投下する計画だったが、悪天候などで長崎に変更したとされる。

同グループは例年8月、八女市星野村で燃え続ける広島原爆の残り火を採火し、それを小倉北区から長崎市まで自転車で運び、途中の佐賀や長崎で小倉祇園太鼓を披露する平和活動に取り組んでいる。

八幡大空襲に関するイベントも実施している。だが、今年も新型コロナウイルスの影響で例年のような活動ができず、代わりに動画制作を企画した。

メンバーは現在2、3年の6人。制作は9月から開始。組み合わせると縦3段、横4段の「ハートの地球」の巨大画となる画用紙100枚の1枚1枚に、北九州市民や活動で知り合った長崎や佐賀の人など計100人にメッセージを書いてもらう予定。うち50人には「あなたにとって幸せとは、残る50人には「その幸せを守るためには」について、それぞれの答えをメッセージとしてもらう。一部の人がメッセージを声に出して披露する様子なども盛り込み、約6分間の動画にする計画だ。

同グループは9月28日から3日間、福岡ひびき信用金庫城野支店（小倉北区東城野町、竹内渉支店長）のセミナールームで巨大画作成に取り組みだ。大学の施設がコロナで利用できず作成場所の確保に困っていたのを同信金を知り、無償で貸したという。

メンバーの1人で2年の田中小晴さん（20）は「信金の協力がありがたかった。平和への関心が少しでも高まる動画にしたい」と話す。

▲令和2年10月3日（土）西日本新聞朝刊 平和の駅運動プロジェクト



学生と地域活動を希望される皆さまへ

申込方法

421Lab.の「地域活動申込書」に記入いただき、メールもしくはFAXにてお送りください。活動報告書やパンフレットなど団体・活動の実績がわかる書類や活動のチラシ等もございましたら、合わせて提出してください。

提出いただいた資料をもとに地域活動が可能かどうか選定し、ご連絡差し上げます。選定にお時間を頂戴する場合がございます。予めご了承ください。

■ 地域活動申込書 ダウンロード

<https://www.kitakyu-u.ac.jp/421/application02.html>



■ 提出、お問合せ先

北九州市立大学地域共生教育センター(平日 10:00~18:00)
Email: info421@kitakyu-u.ac.jp
TEL: 093-964-4092 FAX: 093-964-4088



北九州市立大学 地域共生教育センター

ラボ・レター

地域活動報告2020

(地元就職応援インタビュー)

このラボ・レターは、421Lab.(ラボ)から地域の皆様と共に歩んでいきたい
という思いを込めたお手紙(レター)のように作成しました。

これまでの活動への感謝とこれから始まる新しい関係への、
私たちからのラブレターのように手に取っていただければ幸いです。

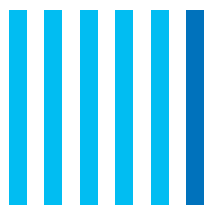
発行：北九州市立大学地域共生教育センター(421Lab.)

発行日：2021年3月

編集：北九州市立大学地域共生教育センター(421Lab.)

協力：プロジェクトに参加していただいた多くの皆様

制作：株式会社 エディックス



421Lab.

北九州市立大学 地域共生教育センター
Regional Symbiosis Education Center

〒802-8577 北九州市小倉南区北方4-2-1 (北方キャンパス2号館1階)

[TEL] 093-964-4092 [FAX] 093-964-4088

[OPEN] 10:00~18:00 (月~金)

詳しい情報やアクセスはホームページでチェック

www.kitakyu-u.ac.jp/421/

Twitterで活動の最新情報を発信中 twitter.com/421lab_students